

東京女子高等師範學校
日本幼稚園協會

幼稚園の教育

主 幹

堀 七 藏

第二十五卷 十一月 第八號

- | | | | | | | | | |
|---------------------|---------------|-------------------------|-------------|--------------------|----------------|-----------------------|------------------------|-------------------|
| 幼兒教育の方法(三)……………北澤種一 | 双子の蚯蚓……………シゲル | 第三十二回京阪神聯合保育大會……………大西精一 | 秋の一日……………孝子 | きびから細工(其一)……………山形寛 | 育兒叢談(五)……………記者 | 地から湧いた幸福(二)……………金子彦二郎 | 東女子高師範學校創立五十年紀念……………醫生 | 幼兒教育的根本原理……………静枝譯 |
|---------------------|---------------|-------------------------|-------------|--------------------|----------------|-----------------------|------------------------|-------------------|

小松耕輔・梁田貞・葛原菡共著

大正幼年歌唱

◇錢二各稅郵

全二十冊完成

◇錢五廿金冊各價定◇

<p>次目集第六 五四三二一 向七虹お水 日面 葵鳥 猿車</p> <p>一〇九八七六 竹夏浦夕と 休鳥人 馬み郎立ぼ</p> <p>次目集第二十第 五四三二一 子太鷄蠅 と蜘蛛 猫陽 蛛</p> <p>一〇九八七六 木森遊あ小 のひさな 馬歌戯る花</p>	<p>次目集第五第 五四三二一 おお露野ご べんた遊も たう山ぼびん</p> <p>一〇九八七六 鬼お燕か雛 お玉たつむ 鳥くしり子</p> <p>次目集一十第 五四三二一 雲花小三私 瓶羽の の花 花犬雀壇</p> <p>一〇九八七六 カ少小雪私 ンガ兵さな ル兵蝸い子 士牛</p>	<p>次目集第四第 五四三二一 紀雪梅雙一 元六月 に遊一 節鶯び日</p> <p>一〇九八七六 犬雀活鴉ス と動ト と寫オ 猫木眞鴉ウ</p> <p>次目集十第 五四三二一 蟻自ス肥文 動イ念福 ン茶 車日釜</p> <p>一〇九八七六 鈴進獨胡鶯 の 音軍樂顔巖</p>	<p>次目集第三第 五四三二一 蒼天飛蟲お 音長行の月 機節船え様</p> <p>一〇九八七六 木落展運林 舟動會の 泥舟葉掛朝摘</p> <p>次目集九第 五四三二一 イ時雲風舌 ン切 ヨ計雀車雀</p> <p>一〇九八七六 雛電鯉駱蜜 まの つぼ り話り駝蜂</p>	<p>次目集第二第 五四三二一 シ汽藤ほ噴 ヤハンのた ン玉車花る水</p> <p>一〇九八七六 せおブ小か ラさへ ンな み船コ鯉る</p> <p>次目集八第 五四三二一 猿紙おお餅 蟹風日角搗 合船様力き</p> <p>一〇九八七六 大軍熊墨あ みら 砲艦 紙れ</p>	<p>次目集第一第 五四三二一 私蝶飛さ幼 のと行く稚 先春 生風機ら園</p> <p>一〇九八七六 かおおおヒ く庭のア れん人草 ぼ馬形花ノ</p> <p>次目集第七第 五四三二一 お電雁おお 祭砂堤星 遊遊 り車 び様</p> <p>一〇九八七六 乳菊お粘象 土客細 母様工</p>
---	---	---	---	---	--

店書黒目

五ノ二町馬傳南區橋京市京東
番九〇八二第京東座口替振

所行發

一、
御入會 を希望いたします。

日本幼稚園協會に御入會下さい。毎月機關雜誌幼兒の教育を配布いたします。
またいろいろの便宜があります。

二、
御寄稿 を歓迎いたします。

幼稚園や托兒所の狀況なり、幼兒に關する研究調査なり、また童謠・童話なり、
苟も幼兒の教育に關する事項についての御寄稿を歓迎いたします。

三、
會費は 前納に願ひます。

半ケ年分金貳圓拾錢、一ケ年分金四圓貳拾錢であります。

振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に御拂込み下さい。



育教の兒幼輯編會協園稚幼本日

會長

東京女子高等師範學校長

茨木清次郎

主幹

東京女子高等師範學校教授

堀七藏

賛助員

東京高師教授

巖谷秀雄

市洋大學教授

東京帝大醫科講師

乙竹岩造

東京府女子師範學校長

東京高師教授

太田孝之

東京女子高師囑託

慶應大學教授

大瀨甚太郎

帝國教育會理事

早蕨幼稚園長

唐澤光德

松江高等學校長

帝國教育會會長

久留島武彦

京都帝大教授

東京高師教授

澤柳政太郎

東京女子高師教授

東京女子高師教授

佐々木秀一

東京帝大教授

東京女子高師教授

菅原教造

奈良女子高師校長

東京市學務課長

藤井利譽

奈良女高師附屬幼稚園主事

東京女子高師講師

藤五代策

東京高等學校長

長崎縣師範學校長

福士末之助

東京帝大教授

文博

谷本富

日本女子大學

文博

安井哲子

湯原元一

文博

吉田熊次

森川正雄

文博

三田谷啓

榎山榮次

文博

松本亦太郎

倉橋惣三

文博

弘田長夫

野上俊夫

文博

乘杉嘉壽

土川五郎

文博

野口援太郎

龍山義亮

文博

高島平三郎

田子一民

文博

棚橋源太郎

柳橋源太郎

文博

安井哲子

湯原元一

文博

吉田熊次

森川正雄

文博

三田谷啓

榎山榮次

文博

松本亦太郎

倉橋惣三

文博

弘田長夫

野上俊夫

文博

乘杉嘉壽

土川五郎

文博

野口援太郎

龍山義亮

文博

高島平三郎

田子一民

文博

棚橋源太郎

柳橋源太郎

文博

安井哲子

湯原元一

文博

吉田熊次

森川正雄

文博

三田谷啓

榎山榮次

文博

松本亦太郎

倉橋惣三

文博

弘田長夫

野上俊夫

文博

乘杉嘉壽

土川五郎

文博

野口援太郎

龍山義亮

文博

高島平三郎

田子一民

文博

棚橋源太郎

柳橋源太郎

文博

安井哲子

湯原元一

文博

吉田熊次

森川正雄

文博

三田谷啓

榎山榮次

文博

松本亦太郎

倉橋惣三

文博

弘田長夫

野上俊夫

文博

乘杉嘉壽

土川五郎

文博

野口援太郎

龍山義亮

文博

高島平三郎

田子一民

文博

棚橋源太郎

柳橋源太郎

文博

安井哲子

湯原元一

文博

吉田熊次

森川正雄

文博

三田谷啓

榎山榮次

文博

松本亦太郎

倉橋惣三

文博

弘田長夫

野上俊夫

文博

乘杉嘉壽

土川五郎

文博

野口援太郎

龍山義亮

文博

高島平三郎

田子一民

文博

棚橋源太郎

柳橋源太郎

文博

安井哲子

湯原元一

文博

吉田熊次

森川正雄

文博

三田谷啓

榎山榮次

文博

松本亦太郎

倉橋惣三

文博

弘田長夫

野上俊夫

文博

乘杉嘉壽

土川五郎

文博

野口援太郎

龍山義亮

文博

高島平三郎

田子一民

文博

棚橋源太郎

柳橋源太郎

文博

安井哲子

湯原元一

文博

吉田熊次

森川正雄

文博

三田谷啓

榎山榮次

文博

松本亦太郎

倉橋惣三

文博

弘田長夫

野上俊夫

文博

乘杉嘉壽

土川五郎

文博

野口援太郎

龍山義亮

文博

高島平三郎

田子一民

文博

棚橋源太郎

柳橋源太郎

文博

安井哲子

湯原元一

文博

吉田熊次

森川正雄

文博

三田谷啓

榎山榮次

文博

松本亦太郎

倉橋惣三

文博

弘田長夫

野上俊夫

文博

乘杉嘉壽

土川五郎

文博

野口援太郎

龍山義亮

文博

高島平三郎

田子一民

文博

棚橋源太郎

柳橋源太郎

文博

安井哲子

湯原元一

文博

吉田熊次

森川正雄

文博

三田谷啓

榎山榮次

文博

松本亦太郎

倉橋惣三

文博

弘田長夫

野上俊夫

文博

乘杉嘉壽

土川五郎

文博

野口援太郎

龍山義亮

文博

高島平三郎

田子一民

文博

棚橋源太郎

柳橋源太郎

文博

安井哲子

湯原元一

文博

吉田熊次

森川正雄

文博

三田谷啓

榎山榮次

文博

松本亦太郎

倉橋惣三

文博

弘田長夫

野上俊夫

文博

乘杉嘉壽

土川五郎

文博

野口援太郎

龍山義亮

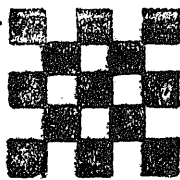
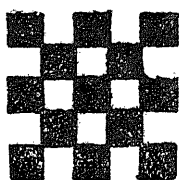
文博

高島平三郎

田子一民

文博

棚橋源太郎



第 八 號 幼 兒 教 育 第 二 十 五 卷

—(次 目)—

幼兒教育の方法(三)	北澤種一……三頁
双子の蚯蚓……シゲル……一〇頁	
第三十二回京阪神聯合保育大會……大西精一……一三頁	
秋の一日……孝子……一八頁	
きびがら細工(其一)……山形寛……二二頁	
育兒叢談(五)……記者……三〇頁	
地から湧いた幸福(二)……金子彦二郎……三七頁	
東女子高師範學校創立五十年記念……醫峰生……五頁	
幼兒教育の根本原理……靜枝譯……五五頁	



少年少女常識叢書



東京高等師範學校 府立師範學校 各中學校 女學校 學院 教官分擔責任執筆

15 東京小松崎中學教諭著	14 東京小松崎中學教諭著	13 元早大井井助教授著	12 東京佐藤保太郎教授著	11 東京岡崎常太郎教授著	10 東京大瀧正寛教授著	9 元早大井井助教授著	8 東京堀江七藏教授著	7 東京中澤伊與吉教授著	6 元東京古川龍城技著	5 東京白井文三教授著	4 東京川崎喜一中教諭著	3 東京元早大井井助教授著	2 東京小松崎中學教諭著	1 元東京古川龍城技著
海空中旅行園	空中動物園	無線電信、無線電話	南半球巡り	昆虫の行世	瓦の魔道	發明家の算術	興味の算術	星の世	動物の生活	火の空	蒸気力	植物の偉力	地震の知識	地物の知識

30 東京田邊八教諭著	29 東京坂口合校長著	28 東京岡崎常太郎教授著	27 東京金澤院教諭著	26 東京東京府立一中教授著	25 東京東京美術學校教授著	24 東京堀江七藏教授著	23 東京東京高師教授著	22 東京東京高師教授著	21 東京東京高師教授著	20 東京東京高師教授著	19 東京東京高師教授著	18 東京東京高師教授著	17 東京東京高師教授著	16 東京東京高師教授著
心算術	鎌倉の算術	我等の身體	現代常識辭典	現下社會の體	地生學の樂み	寫生學の實驗	理化學の實験	飛行機の巡り	北半球の生氣	偉人界の涯	世界の氣候	鐵石の油	國語の知識	算術の知識

後前頁十八百十數畫挿裝美判六四

卷十三全

錢六料送 圓壹金各價定

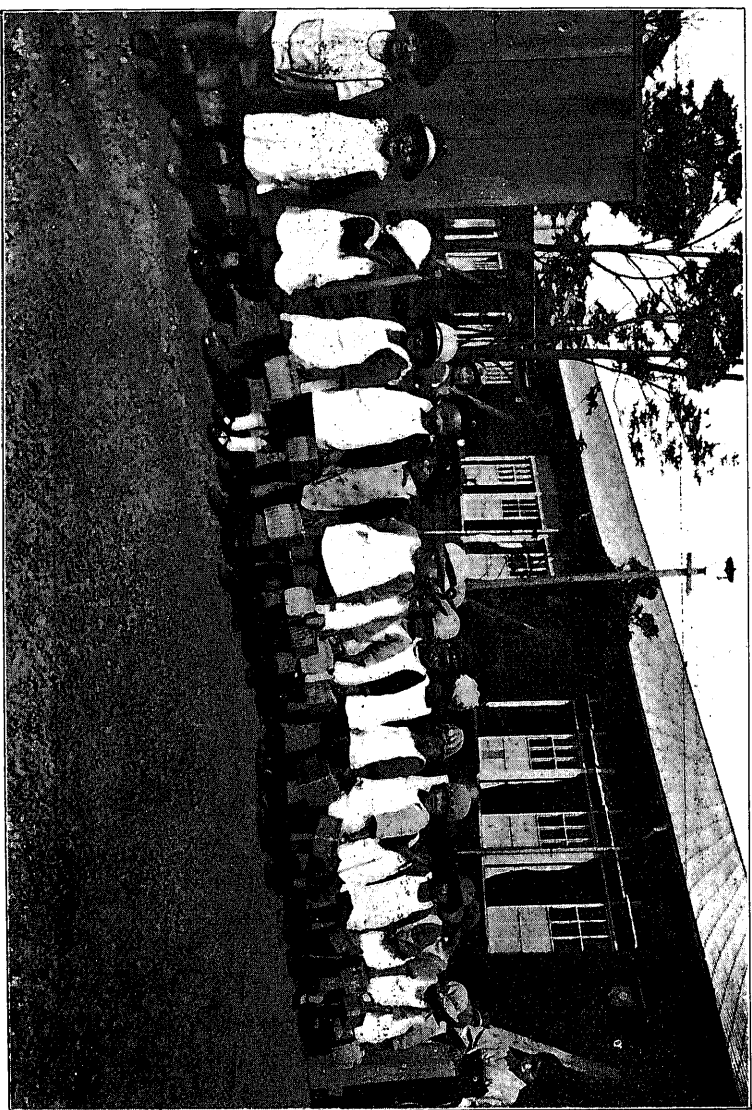
◆呈進 本見 容 內◆

認 定 文部省

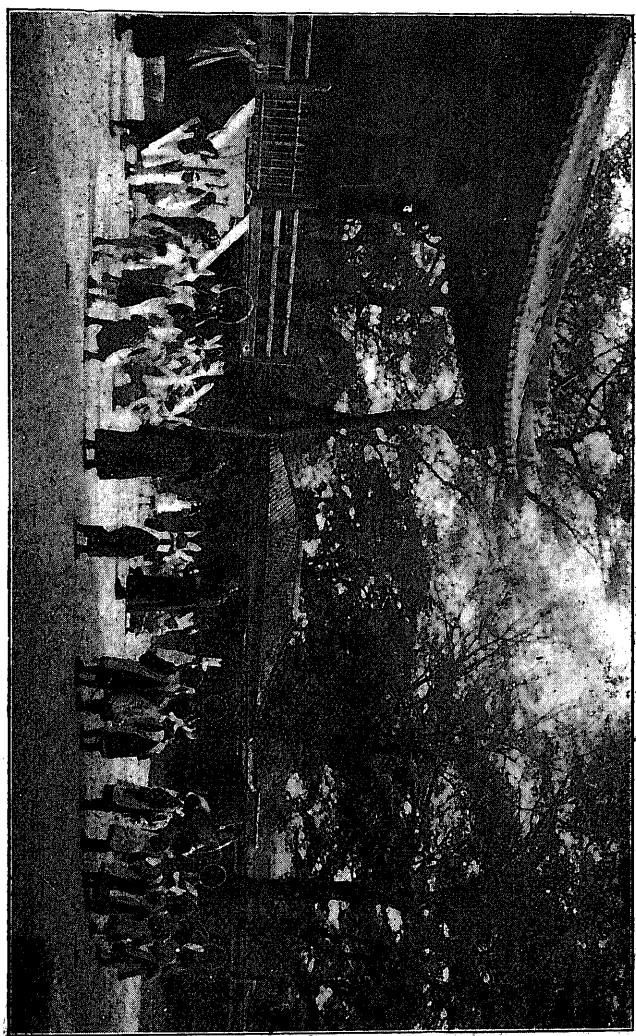
東京高師茗溪會推獎
各都市教育會賞讚

發行所 東京市牛込區西五軒町四十一番地

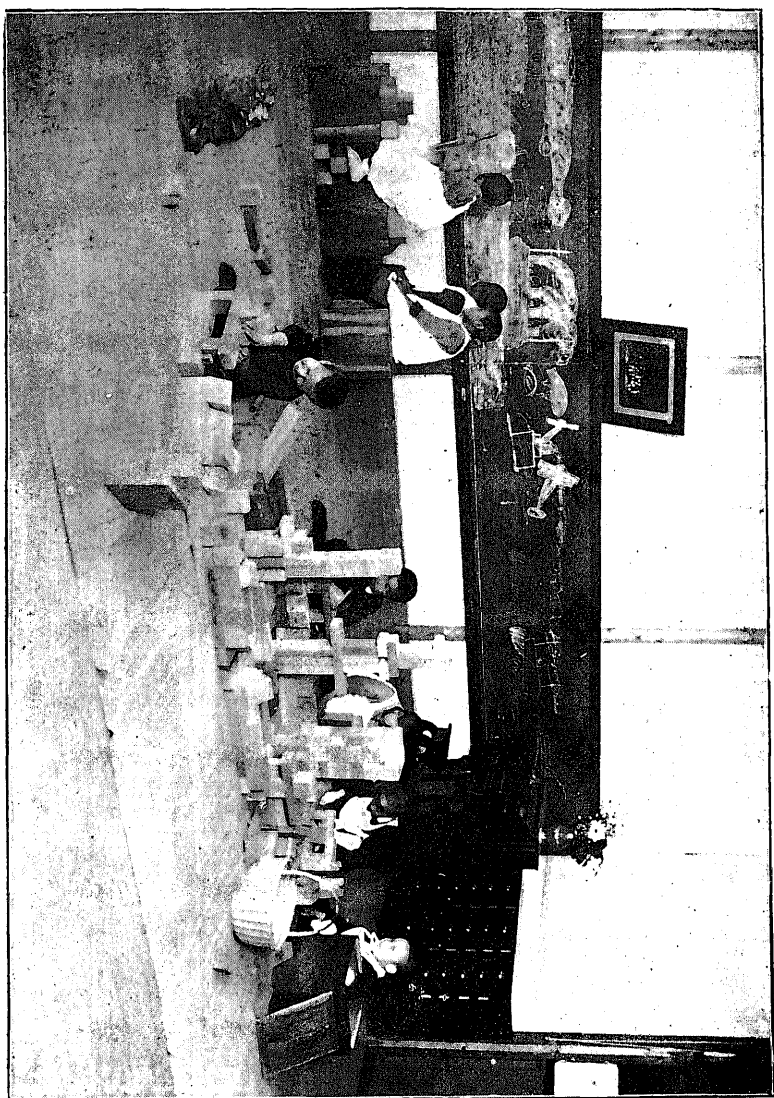
電話 牛込九一六番番
振替東京一五〇九四番番



（國稚幼屬附）足遠の問時一



大 阪 露 天 保 育



幼稚園遊び



附 幼 稚 園 児 の 畫



第 五 十 二 卷 幼 兒 教 育 第 八 號

大 正 十 四 年 十 一 月

一、教育で家庭教育位重要なものではありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼児の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼児の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼児の教育は幼児の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたものであります。

幼兒教育の方法 (三)

東京女子高等師範學校附屬小學校主事 北 澤 種 一

(八)

當時の學校の一般的教育に如何にこの自動教育が影響したかと言ふと其の頃の教育界は自由を重んじませんでした。然しながら又教育者達自身は自由が不足して束縛されて居る。即ち先生の方から云へば束縛して居るのでありますが、其れにすら心付いてゐなかつたのであります。モンテツソリーの影響により自由の缺乏を氣付かせたのはモンテツソリー近代の功績であります。其の裏面にモンテツソリーは兒童に關する同情、觀察經驗及び心理學によつて尙ほ自動教育を考へて居つたのであります。幼兒は如何にも外部から働きを要する様にして生れて來て居る。大人の保護がなければ成長も出來ない様に哀れな状態をして居ります。之れが子供の特徴であり、之れであるから子供で、子供は又かくあるべきものであります。然し社會的の一人である以上、社會に生存して居る以上、幼兒でも其の活動を制限される様な束縛を脱する事は出來ないのであります。子供が保護を要求するのは子供の特權であり、この哀れな者を一人前にするにはどうしても自由を與へねばならないのであります。然し社會の一人である以上

思ふ程の自由を與へる事は出來ず、矢張り一定の束縛を受ける事は止むを得ないのであります。其の束縛はどういふ形で現れて來ると言ひますと干涉となつて現れて來ます。子供を助け成長させるには干涉せねばならないのであります。教師が與へる言葉は子供にとつて干涉となるのでありますから、最も周到な用意が必要であります。社會的の束縛を少くする様に干涉して行つたならば、子供に於ては自發活動となるのであります。然るに従來の教育は社會的の束縛を苦痛とするにかゝはらず、幼稚園小學校に於てはかうせねばならないと言ふ事の爲に束縛され、學校に於てよい子と言はれる子供は其の干涉を上手に切り抜けたものに過ぎないのであります。學校に於てよい子であつて先生の受けのよかつたものが、社會に立つてから案外役に立たず自由な大きい仕事に就いて活動する事が出來ないのでありこれが、社會に於ては亂暴者として先生の鞭の的となつて居た者が大事業を起す事があるのであります。學校で干涉が多くありすぎると前例の様な事になるのでありまして幼稚園に於て社會的干涉のより少い幼稚園がよい幼稚園であります。社會的束縛の一つである秩序を守らねばならぬ事は其の時其の幼兒には其の年齢に適當した秩序を守らせる事が必要であります。即ち理窟にあつた合理的の干涉はまだよいとして、不合理な干涉はどうしてもさけなければなりません。モンテッソーリが此の合理的干涉と言ふ事に力を置いた事は彼の保姆を養成した其の仕方を見ても分る事であります。モンテッソーリの保姆實習の方法を見ますと、保姆の候補者は幼兒が何かして居る場合に何か干涉しなければならぬ事が起

つて來ます。其の際に其れに適當な干渉を行ふのでありますが、其の際の干渉がモンテッソリーがこの場合には此の干渉がよいと考へる、其の考へて居る事とびつたり合はなければなりません。いつもモンテッソリーの干渉と實習生の干渉とが一致するまでは何年たつても免許状を受ける事は出来ないのです。即ち自分で考へて見て行つた干渉が合理的になるのでなければならぬのであります。このモンテッソリーの保姆實習科を出た保姆の居る幼稚園は一見して其れと分る程自由な中にきちつとした所を見出されるのであります。自發活動があらはれて來ると、其處に自發活動のみならず直ちに天性が現れて來ます。之の天性はフレーベル、ルソーが唱へた事ではありますが、何が天性であるかは分らないのであります。モンテッソリーの考へでは今幼兒のして居る事は皆天性の現れである。社會的の干渉のない場合に現れたものが即ち子供の天性であつて具體的事實的な現れであります。その一番始には幼兒を獨立の狀態に置く事が必要であります。不合理的の干渉をされぬ、不合理的の依頼をせぬ、この二つの條件があればこれは獨立の型であります。こういう結論に至つたといふ事はモンテッソリー氏の直觀と心理學の研究によるものであります。そして彼が人間の興味に突進して體驗する事につとめたるにもよるのであります。子供を理解するといふ事は、子供に對して自己の內面的意識を覺醒する事でありま

す。物を與へた時に子供が興味を引き起して興味を持って之を見て後理解するといふ事は考へられるのであります。モンテッソリーの言葉で言ひますならば、內面的の意識を呼びさます事であります。こゝ

に果物の木があります。子供はこれを觀察して栗だと知る事が出来ます。知る事は説明を得て知つたのであります。この栗は幼稚園の御室の傍の栗の木で、花が咲き次第に花が散り實になり其の實が大きくなつて落ちたのだといふ様に毎日彼らの體驗からだん／＼之れが理解し得られる様になるのであります。栗を理解したといふ事は栗に對して子供が内面的意識を覺醒したるによるのであります。内面的意識は人の言葉を反復し得るといふ様なものではありません。その様なのは智であります。智には興味も體驗もない説明的の理解が多いものであります。

(九)

次に近頃モンテッソーリが新しく唱へ出した事に冥想思辨といふ事があります。この冥想といふ働きはモンテッソーリの説の中で、最も東洋的であり東洋人がよく之れを行ひ得る事であるといつて居ります。一體に東洋人は西洋人に比較して見ました時に東洋人は物を總合して見る傾向があり、西洋人は科學分解的に物を見て一部分から全體をおしはからうとするのであります。でありますから科學分解的でない冥想にふけると言ふ様な事は總合的に漠然と考へる東洋人に適して居るのであります。冥想とは内面的意識を覺醒する事であります。從來は外界から受け取つた物に對して如何に反應するかとのみ考へて來ましたが其れに反して我々が内面的意識により事を行ふと考へたのは新しい考へ方であります。電燈を見てこれは電燈であるといふ事は反射的に知つて來たのであります。電燈を見て更に理解の働

のみでなく全體の精神を以てそれに對し内面的に之れを考へるならば之れは内面的意識が覺醒し働いたのであります。幼兒は内面的意識の豊富な所有者であつて、よく之を起す事が出来るものであります。即ち全體的の態度を持つて之にたいする事が出来るものでありまして、幼兒でも内面的な態度を持ち得るものであります。從來の考へでは幼兒は外界の物に對して理解する事が出来得るのみであつて、モンテッソーリの言ふ様な内面的意識といふ様な事にはふれずに置かれた問題であります。西洋人は又内面的意識を起す事は東洋人のみであつて西洋人は發達して居ないものであると考へて居りましたけれども、然し行ひ得る事でありまして。モンテッソーリ教育法の結果自發活動といふ事を考へる様になり、子供の天性を具體的に考へたり子供の内面的意識といふ様な事も考へられる様になつて來た。我々は冥想及び思辯なしには各々の個人製作といふものに從ふ事は出来ないものであります。何故かと言ひますと、この冥想思辨に依り、または内面的に於て反復し循環して居らなければ長い間の作業は續かない物であります。今まで子供は何故比較的長時間其の事を行ひ得るかといふ事が不思議がられて居りましたが考へるだけで少しも理解されて居りませんでした。それは幼兒に豊富な冥想思辨があるからであります。故に我々は先づ其の冥想思辨、即ち幼兒の持つそれに對して體驗し理解してやらなければならぬのであります。然して思辨により人間が本當に成熟し得られたるものであります。成熟とは一般の知識や概念を出来るだけ頭の中につめ込む事と考へて居りまして、智情を總括してこれが完全に出來て居ればそれで

人間が成熟し得られるものと考へて居りましたのは古い考へ方があります。もし本當にそうでしたならば人間は結込んだものをはき出す所の一つの道具に過ぎないであります。牛肉屋のひき肉の器械の様に智能が豊富にされて色々の物をつめ込むで、其れを端から出して行く高等な機械であります。然し此處に冥想思辨があつて智を支配するものであるならば、即ち人間であります。思辨を作つて無限に續く人世の第一歩に踏み出させなければならぬのであります。故にモンテツソリーは單なる幼兒に與ふる玩具にしても唯玩具を與へればよいと言ふのではなくて、其處に冥想等が伴はなければならぬとして居ります。玩具の目的は自己を訂正する事にあるのであつて、子供の周圍、子供の世界の進むに従つて子供の意識を喚起するは極めて必要な事であります。その玩具に用ひられてある材料に對する注意を拂ふと言ふ意識を内面的に恢復せしめるものであります。積木の木といふものの性質を考へて之れをよく理解すること、全體の精神の力を通じて用ひてある材料の智識を得る事が出来るのであります。之によつて子供自身の内面的指導が鋭敏に認められるのであります。

(10)

最後に自身を人格の上に統禦せしめる事が必要であります。かうなるに於て始めて自由を與へた最後の目的を達する事が出来るのであります、一部分一部分の我といふものに基いて後全體的に築上げ、人格的に立派なものとならなければなりません。もしも不合理な干涉をし不合理な依頼をさせたならば、

其の子供は到底完全な發達は出来ません。不合理な干涉に對して幼児が之に順應して行かなければならぬとなると、自分の力を外に曲げなければならぬのであります。之れが幼児の力の足りない所でありまして、外界の保護を受けねばならない所であります。

現代の全體を通じて眞直に人格を立てなければならぬのであります、モンテッソー女史が世界に貢獻した事を言つて見ますと、從來の教育が厭世的の教育であり束縛された教育でありましたのに、彼は自動教育を説いて大いに自由を主張したのであります。自己教育とは自分の冥想の上に、外界から受けたものを取つては自分を助長して延ばして行くのであります。從來の大學者等はこの様な理論的な主張はしたのであります。しかしモンテッソーはこれを理論でなしに事實に於て行つた爲に成功したのであります。從來の社會に行はれた様な強い無理等が行はれる様な事はなく、自由に自動的にすることにとめたのであります。こゝに一つ注意しなければならない事は單にモンテッソーのみを幼児の教育に對する完全なものとする事は出来ません。英國に於てはモンテッソーを尊重し其後かれの弟子を得て幼稚園を行つて行きたいと考へて居る位でありますが然し我が國等に於てはこの二大女性の説をそのまゝに使用しても到底満足した十分な保育は出来ないのであります。よく長所を取り短所を棄てゝ其の上に自分々々の研究した事觀察した事を加へて行かなければなりません。そして幼児に對する熱烈な愛情により堅い信仰に依り、幼児をよく觀察し理解して保育を行つ

て行かなければならないと思ふのであります。又現代他の教育上の運動と同様に、緑色改造運動といふのが幼児教育の上にも及んで参りました。こゝに少しその御話しをし様と思ひます。それは緑色改造運動でありますから、其の名前の通り緑色を尊ぶ運動であります。英國は正に今文明の弊として國民の體育は日一日とたいはいしつゝあるのであります。緑色とは自然のことであります。何故ならば自然は大きな緑色の世界でありますからその頽廢しつゝある國民の體力、精神といふ様なものを皆自然にもどさうとして居るのであります。煉瓦でかためた校舎、鐵を以て作られた家が皆幼児に大きな害を與へて幼兒の小さい體をさいなまうとしつつあるのであります。故に、子供は出來得る限り緑色の世界に出して、即ち庭に出し郊外に出して緑色に接しさせなければならぬのであります。日中外の光線に接せず緑色に接しないものは實に身體に害であり幼稚園の目的に反したものであるといふ考へであります。世の中が進歩するに従ひそれに附屬して色々の學說等は限りなく生れて來るものであります。我々は新説に惑はされる事なく、常に心を幼兒の上に置き、それを適用する事が幼兒に對する幸か不幸かを考へて行かなければなりません。そしてあふるゝばかりの愛情を以つてよく幼兒と同じ心になり保育して行く事が最も必要な事であります。色々の方面から御話を申し上げ一つもまとまつた事を申し上げなかつた事を申譯なく存じますが、然し皆様の心に何物かひゞくものがありますれば何より幸と思ふのであります。



双子の蚯蚓

シ ゲ ル

花子さんのお友達は小さな蟲や、小鳥でありました。

いつも大きな櫛の木の下に来ては、虫や小鳥とお話したり、いつしよに遊んだりしてました。花子さんには、小鳥の歌や蟲の鳴き聲がよくわかりました。特別に蚯蚓とは大の仲よしでありました。

或る時、蚯蚓の双子が急に居なくなりました。

ほかの蚯蚓達はびつくりして太急ぎで、花子さんの所に言ひに來ました『お嬢さんおちやうさん。いつも可愛がつて下さつたあの双子が急に居なくなりましたので、みんな大變心配して、これから

土の中へ探しに行く所なのです。若しおちやうさんが見つけて下さつたら、此の木の所で足ぶみして私共に知らせて下さいネ』さう云つて蚯蚓達は双子を探しに出かけました。その道々で蚯蚓達はこんな事を言ひあひました『あたしたちに眼があつたらいにネー。今までは土の中にもぐつて居ればよかつたから、眼なんかいらなかつたけど、双子を探がすのには眼がないと少し困るネー。』といひながら、あちこちとさぐり歩きました。澤山の蚯蚓共は双子を探しに方々のおうちからぞろぞろ集まつて來てくれました。蚯蚓のおうちといつ

てもまつくらな土の中なのです。みみずは、そういう所が大好きなのです。夏は涼しく冬は暖かだからなのでせう。

さて一番始に森の中を探して歩きました。みみずの國の森といふのは、いろ／＼の木の根がしげつてゐる所です。白い根や茶色の根を攀ぢのぼつたり、もぐつたりしてたづねました。けれども双子は見つかりませんでした。緑色した柔らかい根の所にみみずの子供達がいっぱいブランコしたるかくれん坊したりして、ワイ／＼遊んで居りました。けれども双子たちはその中に交つては居りませんでした。

そこで、みんなは其の森をぬけて蚯蚓の國のお畑に行きました。此處では大勢の蚯蚓のお百姓さん達があちらこちらと這ひまはつては、一生懸命に種をおこして居りました。地面の上で人が折角播いた種も泥の中でねて居ては、奇麗なお花が咲

きませんからでせう。けれども、そのお百姓さん達の中にも双子さんは見つかりませんでした。いたい、どこに双子は居るのでせうネ。

それから、みんなはまた歩いて行きますと、丁度一匹の黄金虫とあぶとが泥の上に這ひ出やうとして居るのに出あひました。此の者達が大きなグル／＼廻る眼を持つて居るのを、蚯蚓達はよく知つて居ましたから、モシモシあなたがよく見えるお眼々で、迷ひ兒になつた双子の蚯蚓を探して下さいなと、頼みますと、二匹の者は『ヨシ／＼』と直ぐ仲間に這入つてくれました。此れからは眼あきがいつしよだといふので、蚯蚓共は大變力づよくなつてずん／＼歩き出しました。

『オヤ、むかふの方に眞つ白な袋が轉つて居るヨ。何だらう』。二匹の者がまづ見つけてくれました。若しかすると此の中にでも這入つて居はしないかと思つてみんなで叩いたりさはつたりしましたら

中から小サナ小サナ聲がして、『モシモシ誰れですか、わたしのおうちを叩くのは。私は蛹ですよ、もう奇麗な蝶々になつて外を飛んで歩くやうになるので、今のうちは、こうして繭の中で眠つておくのです。どうか邪魔をしないで下さい。』といひました。そこで双子の事をさきますと『しらない』とどなりつけました。みんなはびつくりして逃げ出しました。

暗いくらい泥トンネルをいくつか通つて、こんどは明るい水たまりのある所に出ました。大きな岩のわれ目に溜つて居る雨水の中で、一匹の蚯蚓とくろい蟻とが、枯れ葉のお舟に乗つてユラリユラリと遊んで居ましたので、大きな聲で、双子の蚯蚓の事をたづねますと、『知らないけど、いつしよに探してあげやう』といつてお仲間に這入りました。

直ぐそばの小さな泥穴に蚯蚓のお翁さんとお婆

さんとお話して居ました。『ネーおぢいさんお婆あさん。双子のみみすが居なくなつたのですけど』、と申しますと、『オヤ／＼それはお困りぢやろ。わたし達の子供の時にナ、よく、おなかのすいたこま鳥の嘴につゝかれさうになつたことや、釣り針にかけられさうになつた事があつたつけ。もしも、双子さんも、そんな事でもあつたらかわいさうだから、ドウレ、いつしよに探してあげやう』といつて、こま鳥の巢の中を探したり、蚯蚓のあかん坊ばかり寝かしてある緑色の柔らかな根の間を探したりしてくれました。けれども、やつぱり居りません。『どうしたのでせう』みんなはもうくたびれてしまひました。『ホントにどうしたのでせうね』と、ハー／＼息をきらせながら、困つて休んで居りますと、天井で『トン／＼』といふ足ぶみが聞えます。『ハテナ、花子サンが見つけて下さつたのかも知れない。ドレ行つてみや

うよ。」

皆は急に元氣になつてスル／＼と歩き出しました。蚯蚓のおぢいさんにおばあさん、おとうさんにお母さん、近所のお友達やおぢいさんやら、黄金虫だの虻だの蟻だの、ゾロ／＼ズル／＼、上へ上へ、上へと暗い泥のトンネルやお山を通つて、やつとこさで檜の木の下の明るい所に出ました。

花子さんはこ／＼して『ホーラ双子さんよ。』みると、花子さんの両方の手の上に、ドングリの帽子がのつて居て、その中で双子サンは小さく固くうづまいて、スヤ／＼スヤ／＼と眠つて居ました。『まゝ、花子さんありがたう。花子さんありがたう』みんなはもう嬉しくておどりあがつて喜びました。

第三十二回京阪神聯合保育大會

神戸市保育會 大 西 精 一

第三十二回京阪神及吉備、名古屋の聯合保育大會は、神戸市保育會主催で、十月十七日神戸市神戸小學校で開かれた。來會者は大阪市の三百名、神戸市の二百餘名をはじめ、すべて七百三十餘名、來賓は佐藤縣學務課長、横尾市教育課長、山榊代議士、土川五郎氏、縣市會議員、各學校長其の他合せて八十餘名の多きに達し、満場立錫の餘地もないといふ盛會であつた。

會議は午前八時に開かれ、末正神戸市保育會長議長席に就き、(研究題より池永同副會長と交代)左のプ

プログラムにより整然と進行した。

第三十二回京阪神聯合保育會順序

大正十四年十月十七日午前九時開會

一、一同入場

豫定時間
午前八時五十分

一、囀

歌

君か代

正 午前九時

一、開會之辭

神戸市保育會長

一、祝

辭

兵庫縣知事

神戸市長

以上約二十分間

一、會務報告

約五分間

一、議

事

協議題

1 幼稚園令制定促進の件に就て

約十分間

研究題

1 幼稚園保姆の任務を全うせんが爲めに現代の思潮に照し特に修養を要すべき事項如何

名古屋市保育會提出

約三十五分間

2 時代の要求に鑑み幼稚園教育に於て質實剛健の芽生を一層強くならしむる方案如何

吉備保育會提出 約 三十五分間

3 保育の効果を大ならしむる爲め幼児に對する母親の理解を向上せしむるに必要なる

幼稚園の施設を承りたし 大阪市保育會提出 約 三十五分間

(説明) 幼児教育は幼稚園と母親家庭との理解協力によらざれば其効果を收むること

と至難なるは論を俟たざる處なり、然るに現狀に於ては一般母親の幼児に對する理

解低き爲め此點に關して遺憾とする處尠しとせず之れ本問題を提出せし所以なり

4 幼稚園に於ける唱歌及び遊戲選擇の標準を承りたし

神戸市保育會提出 約 三十五分間

●(備考)可成多數の御意見發表を願ひ度きに依り一人約六分間以内に願ひたし

休 憩 晝 食

一、研究發表表

正 午後一時始

1 組分けの仕方に就て 京都市保育會 約 十五分間

2 幼児の砂場保育 大阪市保育會 約 十五分間

3 幼児の語彙に就て 吉備保育會 約 十五分間

4 幼兒と色彩

京都市保育會 約 十分間

5 一幼兒の觀察に就て

神戸市保育會 約 十五分間

一、遊 戲 交 換

約一時二九分間

1 影 踏 み 2 兎のダンス 3 虫の樂隊

4 團栗ころく 5 を 山 6 お遊び 大阪市保育會

1 風にはつ葉 2 自動車遊び 京都市保育會

1 朝起の雀 2 兎のダンス 吉備保育會

1 お玉杓子 2 海水浴 神戸市保育會

一、閉 會 之 辭 神戸市保育會長

以 上 午後三時半終り

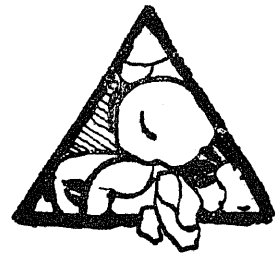
協議題の「幼稚園令制定促進の件」に就いて、十月初め關西二三の新聞紙に掲載された、文部省で審議中の幼稚園令改正基礎案といふのが甚しく吾人の期待を裏切り、唯現在の小學校令中のものを單行法規に改めたに過ぎないものだつたので、大阪、神戸の兩會役員が會合して、目的貫徹のため、東京方面及聯合各保育會に夫れく照會や依頼中であつた。當日開會前の聯合役員會議中に東京市學務局から「關西新聞のは誤り、出来るだけ希望にそふ」との飛電あり、一同これに力を得、總會の席上で、大阪市村

田二郎氏からこの件に關し從來の經過を詳細に報告せられ、飽くまで希望達成のため努力することを決議した。そしてその方法は神戸市保育會に一任せられたので、神戸市では取り敢へず、文部省關屋普通學務局長宛に、「幼稚園令制定はかねて提出せる全國聯合保育會の意見に副ふやう御努力を乞ふ」と打電し、更に右の旨を文書を以てすることに決した。

研究題は皆幼稚園教育の内容充實と、その普及發達を圖るために重要な問題であるが、各市の代表者が眞摯な態度で有益な意見の發表があり、研究發表は日々幼兒を取扱ふ上に常に留意せねばならぬ事項のみで、是亦貴重なる苦心の結果を詳細に發表せられたので、一同の得る所頗る大なるものがあつた。遊戲交換では本大會のために各市が新に考案されたものを實演せられたのであるが、とりぐに面白くもので一同の喝采を博した。

以上で大會は終つたが、要するに本大會が豫期以上の出席者を得、殊に遠く東京・静岡・滋賀・廣島・佐賀・熊本・高知の各地方から態々出席せられたのを見、而かもすべてが熱心に研究的態度を以て終始せられたのを見、幼稚園教育の前途を想ふて實に愉快に堪へない所である。

因に兵庫縣では今回縣保育會組織の計畫があり、當日閉會後縣下會員を集めて、津倉縣視學からその發表あり、全會員の賛成を得、近く委員を選んで具體案を決定せられることになつたから、やがては兵庫縣保育會としての活躍を見ることがあらう。



秋の一日

附屬幼稚園

孝

子

一、遠足出發

空はるり色に澄んで御庭に高くく咲いて居るしおんに赤蜻蛉が二三羽たわむれて居るある日。秋の強い日光が御窓を通して今一心に御飯事をして居る可愛い子供の顔を照らして居る。今まで夢中になつて御飯事して居たみちこさんが急に「先生本校へオートとりに行きませう、みち子もう御飯事飽きたやつたの」と、いつもの様に鼻をならすと、あちからもちちからも「え先生ね本校へ行きませう」、「本校本校」、「御散歩がいの御散歩」、今まで人形を抱いたりしほれたダリヤで一心に御壽司を作つて居た人達も人形も御茶碗も捨てツイくんと兩腕にすぎる。「おゝ大變く、こんなに皆で騒いぢや先生の耳が破れてしまひますよ。一寸御待ちなさい」、やつとの事で飛付く人を制して、本當に御天氣がいのから本校へ行きませうか。「嬉しい……嬉しい……」。一ぱいまつはりついて居た人達がばねじかけの人形の様にはなれたと思ふと「池の組御はいり」、「池の組御散歩」とせい一ぱいの大聲をあげながら四方八

方に消えて行く。むしろの上には手足の眞黒になつた人形が獨りで淋し相。

やがてどや／＼御砂場から御遊嬉室から汗ばんだ顔にしかも漲る嬉しさをかくして集つて来る。

氣の利いた人はもう帽子をかぶつて……「先生遠足ですか」「本校へ行くの」「先生千枝子筆入持つてく、御帖面どれ、畫の帖面ね、先生」。いつも寫生に行くので、矢つぎ早の質問に物を言ふ暇がない。「まあまあ待つて頂戴、今日は御帖面も筆入もいらないの、もつと／＼いゝ物を持て行きませう、何でせう」「あらッ……何でせう」。皆は鳩の様な目をくり／＼廻して御隣の人と顔を見合して居る。「御辨當ですよ」「マア……嬉しい／＼」。思はず知らずやす子さんが飛上る。「ではね御手洗に行つてから御帽子取つて來ませうね」「ハァーイ」。どや／＼ばた／＼大騒ぎ。出發の前はとてみどい騒ぎ。

約三十分程してやつと入口の所に可愛いゝ行列が出來た。むしろに御湯、御うがひ道具、それに色紙を少しばかりを持つていよ／＼出發。「ではね行く前に御約束ませうね、先生に御斷りしないで方々にブラ／＼遊びに行かない様にませうね」「え、大丈夫」。皆の顔は嬉しさはかゞやいて居る。「今日は御辨當持つて行くつて、まるで本當の遠足みたいだね」「僕いゝや今日海苔卷だから丁度いゝな」「私バンよ」「御手々つないで……」。私が前にたつて歩いて行くと後の方では御辨當のはなしが始つて居る。

二、原　　つ　　ば

豫定の原つばに到着する。原と言つても其處はもと學校の御庭であつた所が道路にとられたのであつて、草は名ばかりしか生へて居ない。

猫じやらし、赤飯の草が所々半ば狐色になつてあるばかり、後は煉瓦のかけや木等が方々にちらばつて居る。こんな所をあんなに喜ぶのかときつと地方の方はびつくりなさるであらうと思はれる。

「さあ着きましたね」、「先生此處で遊んでいゝの嬉しいな」、「きつとオートやバッタが澤山居るせ」、「ヤアー——」と、バラ／＼もう駈け出してしまふ。「バスケットを置てから遊びませうね」、「ハアイ」、「何處に置ませうか、此の石の上は」。「先生冷たいや」、「さうね、ちや此處にこのござを敷いてあげませう」と、私はもつて居たむしろを適當な草の中へ敷く。「さあバスケットこゝへ置ませう」、「ヤアー」と、大喜で靴をぬぐのもどかしく、其の上にくろげ込む。ガチャ／＼バスケットがひつくり返る向ふの方からさつき駈け出した一團がバスケットを肩にのせてやつて来る。

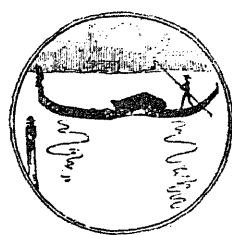
「御辨當／＼サンドイッチ」、俊雄さんが名案を思ひついてかう呼ぶと、後に居たものが早速まねる。「アイスクリー／＼」、「え、汽車の御辨當はいかゞ」。汽車の御辨當と言ふから實に滑稽である。「早くいらつしやい俊雄さん」と、誰かゝ呼んだのでびつくりして駈け出して来る。「先生みちこ〇〇へ行つた

時御婆ちやんと御壽司買つたの、「僕だつて買つたの、大磯へ行つた時おいサンドイッチ二つと言つたよ。」皆は夏休みの旅行を思ひ出したらしい。「さうそりやよかつたのね。」「さ此處へお上りなさい。」「

やつと皆揃ふ。「さオートさがしませうか」と、私が立ち上ると、「先生僕お腹がすいちやつたの、御飯が食べたいなあ。」「あたしも御腹がすいちやつた。」「あたしもく。」「そうもうそんなに皆が御腹がすいちやつたの。時計は十一時十五分強。」「ぢやまだ早いけど戴きませうね、お行儀よく坐りませう、お靴をちやんと揃へてね。」「二三人づゝ一かたまりになつてバスケットをかゝへ。」「アハ、、、、フ、、」ととても嬉し相。御うがひ茶碗を出しうがひが濟む。

「さ戴きませうね。」「戴きます。」「戴きませう——」と威勢のいゝ事。

御話する人もまれな位、皆は夢中でつめ込んで居る。「先生先生。」「なんですか。」「蟻が御飯食べにごさの上へやつて來ましたよ先生。隅の方の男のかたまりから賑やかな聲がする。」「そうですか、あんまりおいしい相だから來たのでせう、殺さないでそつと逃しておやりなさい。」「ハイ。暫くしてから又アハ、、、、ハ、、、、。」「先生僕が玉子をのせてやつたら重くて歩けないんです。」「アラいやだ……」。行つて見ると大き蟻が玉子のかたまりをのせられてもがいて居る。「まあまあ、折角御馳走を戴いても持てなくちや困るはね、御馳走どけてやりませう。」「えい」玉子をどけると蟻は大至急で逃げ出した。「ア、喜んで行つちやつたヤアヤア」秋の日はまだ高い、赤とんぼが低く子供達の頭をかすめて行く。



きびがら細工 (其二)

東京女高師訓導

山 形

寛

一、はしがき

きびがら細工は近頃可なりな勢で普及しかけて居り、之に關する記事も二三の雑誌に發表せられたのを見た。私も之に關して一度雑誌兒童教育にその價值及び工作法の大要を載せたことがある。然しそれは個々の教材に就ては述べることが少く例として三四を挙げたのに過ぎなかつたのである。茲では主として代表的の教材に就て工作法の大要を述べやうと思ふが、説明の順序として多少は、その細工の價值なり性質なりも述べなければ充分に考へて居る處が盡せないから、前に雑誌兒童教

育に載せたのと多少の重複する處があるかも知れないが、その點は豫め御斷りして置く。

「きびがら」と云ふのは黍の幹であるが、普通に黍と呼ばれて居るものは、學名は兎に角として地方によつて多少異なつたものを指されて居る様である。目下細工に用ひられてゐる「きびがら」は、主として滿洲産の「かうりよう」の幹である。然し内地産の「たかきび」又は「たうもろこし」等の幹でも充分に使へると思ふ。賣品としてある「きびがら」は、徑一センチメートル内外から二センチメートル内外のものを、長さ約十八センチメートル位

に切り、約十本位を一把として九錢か十錢位に賣つて居るのである。そして一把の中には皮をとつたものと皮のついたまゝのものがあり、皮をとつたものは赤、青、黄、緑、紫等の色で染めてあるのが普通である。

二 きびがら細工の價值——長所短所

「きびがら」細工はその性質が豆細工に似て居る然しそれよりも工作が一層簡易であり、且つ自由であるばかりでなく、豆細工では到底企て及ばない種類の工作をも含むものである。換言すれば豆細工のあの數學的な構成的な、そして遊戲的な長所をそつくり持つ上に、紙も粘土も持つて居ない所の或種の表現に對する可能を有し、おまけにその作品は甚だ素朴の感があり、又大味な所がある。もつと具體的にその長所を述べれば、

一、皮を去つた幹は、小刀でも、鋏でも、竹篋でもきびがらの皮でも容易に切斷が出来る又手

で折ることも出来る。

二、壓縮して角を丸めることも、細し太しをつけることも自由である。

三、籤竹でも、むいた皮でも容易に接合が出来る。その接合は豆と籤竹の場合よりもかへつて容易である。

四、短く切つたものを、豆細工の豆の代用として籤竹や皮で接合すれば豆細工で可能な題目は凡て出来るばかりでなく、棒のまゝ接合したり、棒と籤竹又は皮とを以て構成したりすれば更に趣の變つたものが出る。

五、大きくはいだ皮を平たいまゝ使へば、更に面白いものが作り得られるし、又壓縮したり、一部分をむしり取つたりすれば彫刻的な工作さへ可能である。

六、容易に着色することが出来る。

七、他の材料との混用も、豆細工などよりは自

由である。

八、小さい兒童の趣味と筋肉の發達とに適合して居る。

以上は重なる長所に就いて述べたのであるが、然し短所もないことはない。その主なるものは次の如きものがある。

1、皮は非常に堅いから、取扱上注意しないと手を切ることがある。又皮をむく時に、その端が爪の間にさゝることがある。然し是等は注意さへすれば避けることが出来るし、又手を切ると云つても危険の伴ふ程のものではないが、短所と云へば短所である。

2、價があまり安くない。特に棒のまゝで組立てをやらせる場合には、多くの材料がいる。材料を儉約して小さく作れば、太短い不恰好のものとなる。然し現在賣つて居る價は少し高過ぎると思ふもつと需用が多くなれば安くなるだらうと思ふ。

然し豆細工類似の工作や、彫刻的の工作を主としてやれば、あまり多くの材料を要しないから、多くの費用は要しない。

3、或る種の作品が毀れ易いことは豆細工と同様な短所を有する。

きびがら細工は以上述べ來つた如き長短を有するものであるが、その長所は短所を補つて餘りあるもので、幼稚園の手技及び小學校初學年に於ける手工材料として確實な地歩を占めて居るものと云ふことが出来る。只今の處では教材に就ての研究が充分に行はれて居ないが、漸次この方面の研究が進めば更に新なる長所を發見し得るの素地が充分に存するものなることが認められる。

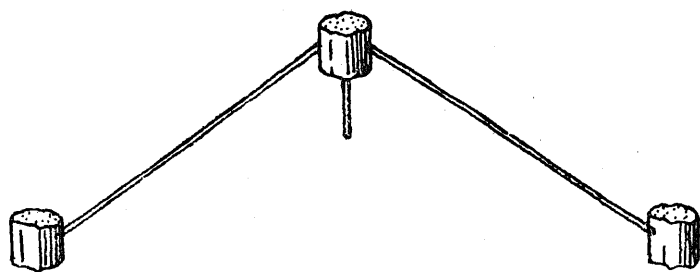
三、豆細工類似の工作法による教材

この種の教材は、豆細工の教材を直ちに移して來ればよいので、別に説明する必要もないと思はれるし、且つきびがら細工の本領とする所でもな

いから、製作例を擧げる必要もないと思ふが、この工作法は材料が經濟的に用ひられるから、その點から見て少しやつて見るもよいと思ふ。然し中には單にかう云ふ意味からばかりでなく、當然この種の工作法に依るべきものも多少は存するであらう。故に左に念のため二三の實例だけは擧げて見やう。然し茲に擧げる教材は合法的な一つの組織を示すのではなく、斷片的にかう云ふやうに工作するものであることを示すに止まるものである。

一、彌治郎兵衛（第一圖參照）

1 皮をとつた細い「きびがら」を長さ一センチ強に缺で切つたもの三個を作る。この長さは兒童には別に寸法を示すのではない。この位の長さと云つて實際のものを示し目分量で切らせるのである。目分量で作らせると云ふことは眼や手の感覺を練習せしめる上に甚だ重要なことで、幼稚園や小學



第一圖

級の下級に於ては、指や其他のものにくらべて作らせることよりも一層意義あることである。

缺で「きびがら」を切るには、一氣に切り離すよりも、材料を廻し乍ら漸次周圍に切り込みをつけて行つて遂に切り離すか、相當の

深さの切込が出来た後に手で折り分けるかするが

よい。

2 籤竹又は細く割つた皮を長さ約八センチに切つたもの二本を作る。これを作るには初めの一本は目分量で作り、次の一本は初めに作つたものにくらべて作らせる。

3 籤竹又は細く割つた皮で長さ約三センチのもの一本を作る。これを作るにもこの位と云つて目分量で作らせるのである。

4 以上の材料を第一圖に示す如く結合する。この時は左右の二本の棒の角度に注意せしめる必要がある。又棒を挿す時に幾度か挿し替へる時は孔が大きくなつてうまく止まらぬことがあるから注意する要がある。

以上で出来るのであるが、左右の端に挿した「きびがら」で調節してよく平均を保つやうに修正せしめるがよい。

二、虫 籠 (第二圖参照)

この教材は單に箱としてもよい。そして第二圖に示したものは長さと幅とを違つた寸法のものにしたが、長さ、幅、高さを何れも等しく作つてもよい。その工作法は次のやうにする。

1 籤竹又は皮を細く割つたもので、長さ約六センチのもの四本と、長さ約七センチのもの四本と長さ約十センチのもの四本とを作る。これ等の長さは何れも初めの一本だけは目分量で作り、あとの三本はそれに較べて作らせるのである。要するに三通の長さのものが各四本づゝ出来ればよいのである。

2 中位の太さの皮をとつた「きびがら」を、ほど直径と等しい長さに切つたもの八個を作る。

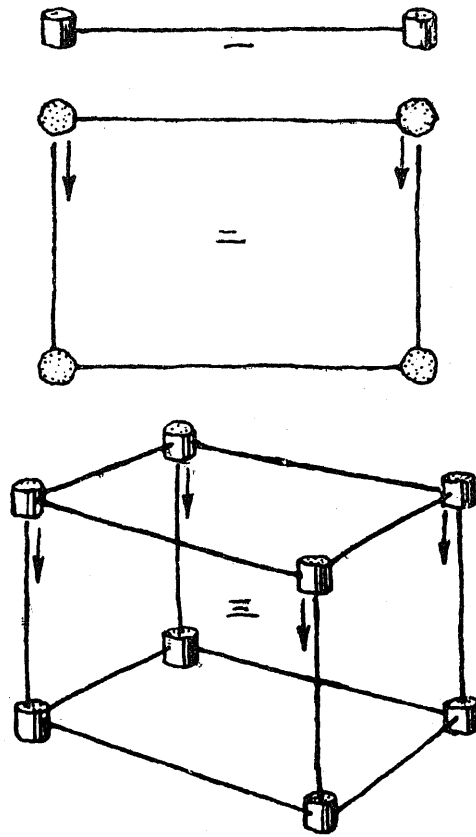
3 一番長い籤竹(又は皮)と二個の「きびがら」とで第二圖一に示した球竿状のもの四つを作る。

4 第三工程で作つたものの兩端の「きびがら」の

横に最も短い簾竹(又は皮)を一本づゝ直角に挿してから、第二圖二に示すが如く、他の球竿状のものを結合して長方の枠状のものを作る。こう云ふ

5 一個の枠状のものゝ四隅にある各「きびがら」の切口に、中の長さの簾竹(又は皮)を垂直に挿してから、第二圖三に示す如く他の枠状のものを挿し、歪を訂正して仕上げる。

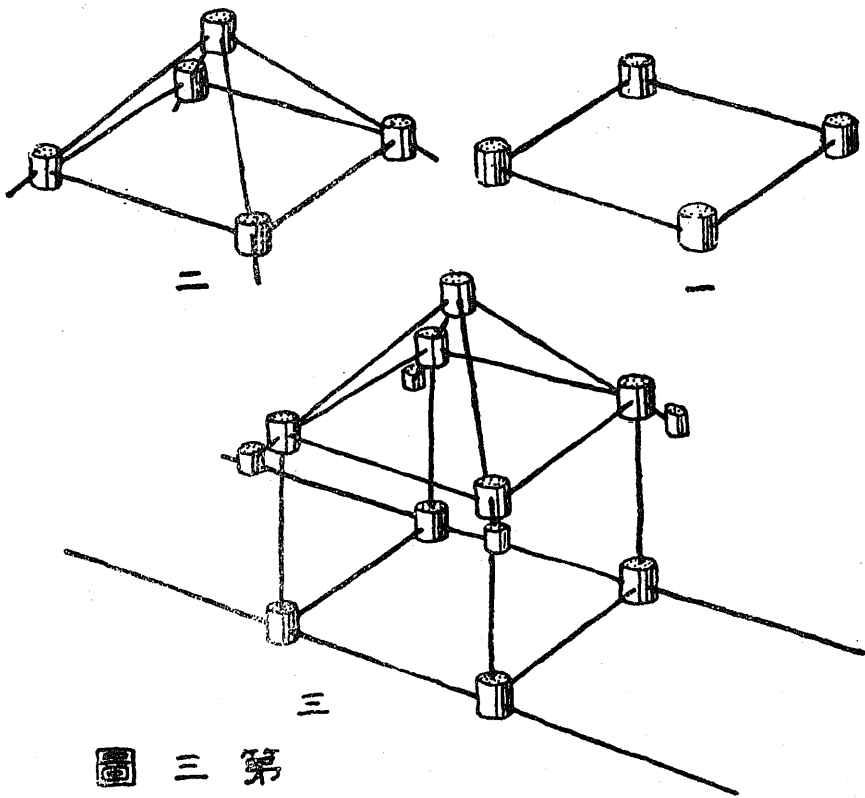
6 以上説明した工作法は甚だ合理的のもので、かう云ふ順序に作るのが最も正しく出来るのはあるが、實際児童に作らせるには必ずしもこの順序に従はないで各児童の好む方法によつて作らせてもよい。然し指導者は



第 二 圖

ものは二個作るのである。そして兩方を較べて見て形をなほして置くがよい。

合理的方法を考へて居つて場合に應じて彼等に示すことは大切である。



第三圖

又かゝるものは必ずしもこの通りの形に作らせるの要はないので兒童の好む形に作らせ彼等に自由に創造力の發達をせしむる餘地を存して置くの要がある。

以上二つの注意事項は單にこの教材に就てのみ重要なことではなく、全般に共通のことである。

三、おみこし（第三圖参照）

第三圖は神輿である。これを作るには次の如くする。

1 籤竹を長さ約七センチに切つたもの十本と、長さ約八センチのもの四本と、長さ約二十二センチのもの二本とを作る。こ

れ等の方法は前に於ける工作に準すればよい。

2 皮をとつた中位の太さの「きびがら」を、長さ約二センチに切つたもの九個と、極細い「きびがら」を長さ約一センチに切つたの四個とを作る。

3 第一工程に於て作つた長さ約七センチの籤竹と、第二工程で作つた大きい方の「きびがら」とで第三圖一に示す如き正方形の枠形のもの一個を作る。その工作法は前者に準する。

4 一つの正方形の枠の四隅の「きびがら」に、斜に長さ約八センチの籤竹を通し、中央に於て一つ残つて居る大きい方の「きびがら」を用ひて結合するこの時籤竹の端を中央の「きびがら」のなるべく下部に挿す方がよい。

5 前工程に於て作つた、幹に挿した籤竹の下方

の端に第二工程で作つた小さい方のきびがらを第三圖三に示すが如く挿す。

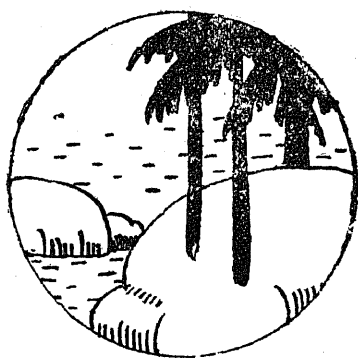
6 長さ約七センチの籤竹二本と長さ約二十二センチの籤竹二本と大きく切つた「きびがら」とで梯子形のものを作る。この梯子形の中央部は第三工程で作つた正方形の枠形と同じ大きにする。

7 梯子形の中央の正方形の枠の四隅の「きびがら」の切口に約七センチに切つた籤竹を垂直に挿してから、第五工程に於て作つたものを結合する。この結合法は、前課の第五工程に準する。

8 最後に長さ約二十二センチに切つた籤竹を第六工程で作つたものの下方に挿し第三圖に示す如くして作り上げる。

育 兒 叢 談 (五)

第七 疾病と年齢との關係 (續き)



時事新聞が婦人夏季講座に連載した醫學博士川上漸氏の講話であります。直接育兒のみに關係してゐるものではありませんが母としても保母としても心得た方がよいことが多いので轉載いたします。

長生きする法

どんな用意が必要か

今日からでも遅くない

こゝに於て老衰状態を惹起して來る一つの原因は、この生殖腺の衰へるが爲めであると結論して略間違へがないと思ふのであります。それで嘗て有名であつた所の「スタイナツハ」の若返法なるものがあるが、是は生殖腺の働きの一つだけ封じて即ち外分泌腺を止めて之れを悉く内分泌腺にしや

うと云ふ方法であります。是は理論としては誠に結構なことである、併しながら之に依つて吾々が天壽を全うすることは不可能で唯一時を糊塗するに過ぎないだけのものであります。仍て今日の醫學では實驗的に老衰状態を起すことは容易であるけれども、之を醫學の力に依つて、除去することは不可能である、故に吾々が之に處する方法は唯々出來得る限り老衰の状態を徐ろに近づかしめ、追々に年をとると云ふことに在るのであります、

追々に年をとると云ひましても、無論年は三百六十五日を一期とした年とは無關係で、徐々に老衰の状態を吾々の身體に近づかしめ、さうして成るべく天壽に近く生きると云ふことなのであります、それならば徐々に年をとる方法はどんなにしたものであらうかと云ふことが、當然問題になる譯であります、この徐々に年をとると云ふことは、可なり面倒なことであるのであります、是は一つは若い間から一定の準備が必要であると云ふ事、一つは老衰が愈々近づいた時、其の程度を高めざる事此の二つであります、此の老衰を未然に防ぎ久しい前から準備をして老衰を遅れさせると云ふことは、是は非常にむづかしいが、併し今からお始めになつても遅くはないと思ふので敢て秘傳と云ふ譯でもありませんが、茲にお傳へしやうと思ふのであります、一體人間は身體が次第に衰へて行くこと、尙ほ素撲に云ふならば人體を構成

して居る所の細胞の働きが次第に衰へて行くと云ふことは何故であるかと云ふと、是は一つの中毒の症狀であつて決して當然の事ではないのであります、中毒の状態でも極めて慢性な中毒の状態であるのであります

吾々は文明の餘澤に依つて多くの樂みを得て居ります、又食べ物を容易く手に入れることが出来、其の喰べ物の材料を喰べ易いやうに形を變へることが巧みになつた、従つて吾々は澤山に物を喰べる、即ち過食する傾きがある、否傾きと云ふよりも、今日の文明人は常に過食して居る——大めしを喰過ぎて居ると言つて宜いのであります、是は昔は路の悪い所を不完全な弓や槍を持つて、一日中駆廻つて漸く鹿一疋とか、熊の子一疋しか手に入らないと云つたやうな有様であつたらうが、今日では魚を網で取り、鐵砲を以て野獸を獲ると云ふやうに、容易く手に入れる事が出来るやうにな

つた、それから昔は煮るとか焼くとか云ふ事は不自由であつた爲め、腹が一杯にならない内に、疲れてしまうと云ふ具合でありましたが、今日は生のものでも、醬油を入れたり、味淋を入れたり、酢を入れたりすれば、直もう立派に喰べられるやうになると云ふ風に、この材料から口の内に入れる手順が樂になつた爲めに自然澤山に物を喰ふやうになつて居るのであります、又もう一つは文明の力に依つて、古い物をうまく喰ふ方法が発見されたのであります、例へば魚河岸のお休みの日でも吾々は新鮮とは云へないにしても魚の刺身を喰ふ事が出来る、併し是は其の日の仕入れでない事は確かであります、即ち吾々はこの古い物を、色々加工して喰ふ事を發見したのであります、醬油を入れたり、味淋を入れて焦して見たり、煮て見たり色々な事をして古くなつた物をうまく喰ふ方法を文明が教へてくれたのであります、斯様に一方

に於て物を澤山喰ひ、一方に於て古くなつた物を口を胡魔化して澤山に喰ふ、それからもう一つは時間を惜む爲めに、排泄物を長時間身體の中に蓄積させる方法を考へついたのであります、此の事の爲めに、吾々は長い間に亘つて或る毒物に中毒して來て居るのであります、仍で天壽を全ふしやうと思ふ者は、先づこの中毒の状態を久しい間の心掛に依つて、遁れる必要があるのであります、それは恰度昔の仙人術のやうなものであります、先づ便通を良くする、通じの時間を正くする、さうして出來得べくんば、鳥のやうな生活を爲し、朝日の出る前に起き、日が暮れば寢てしまふ、さうして餘り御馳走を喰はぬと云ふことであります。

珍客接待に

お馳走嚴禁のこと

却つて壽命を縮めて

友情に反する譯になるから

この御馳走と云ふものは、多くの場合に於て古くなつた物をうまく喰ふやうに舌を胡魔化すやうに拵へたものに過ぎないのであります、お刺身はさうでもありませんが、魚の照焼と云ふやうなのは、最も巧に吾々を欺くやうに拵へたものであります、斯う云ふ物を體內に入れると中毒を起すことが多い、従つて吾々は老衰状態に早く近づくのであります、即ち西洋人も「人間は自分の齒を以て、自己を埋むべく、その葬るべき墓の穴を掘りつゝあり」と云つて居る、是は御馳走を喰ふことを戒めたもので、人間が御馳走を喰ふことは、恰も自己の齒を以て自己を葬る穴を掘つて居るのと同様で、實に情ない事であります、此の意味から云ふと、人を招待して色々御馳走をすると云ふことは、誠に失禮な事に當る譯で、久し振りに會つた親戚故舊には、成るべく大根や、菜の葉のやうな物を食はせて置く事が、最も濃厚なる友情の現

はれであり且つ極めて親切な事になるのであります、それから此の「コレステリン」が澤山に體內に現はれることを防ぐ方法としては、第一に心身の過勞を避ける事で、精神的勞働及び肉體的の勞働が過ぎると、血液の中の「コレステリン」が非常に殖えて來るのであります、又婦人にあつては妊娠をする度毎に、この「コレステリン」の量が増すものであります、それから傳染病に罹ることを防がねばならぬ事です、傳染病に罹ると又「コレステリン」の量が非常に殖えるものであります、それから房事過度、腎臓炎も「コレステリン」を殖す一つの病氣でありますから、罹らぬやうにせねばなりません、但しこの腎臓炎は、多くは傳染病の場合、或は動脈硬化症等の場合に起り來るもので傳染病に罹らぬやうにし、複雑な食物を避ければ腎臓炎に罹る事は免れ得るものであります、兎も角一言にして申しますと食物は單純な物ほど宜い、

さうして其の量は少い程宜いのであります。

最後に前に述べた事を補充して置きたいと思ひます、それは老年になりますと、いやな一つの病氣があります、それは癌である、是は直腸に現はれて一直腸癌になり、胃に現はれては胃癌、子宮に現はれては子宮癌、或は口内に現はれて口頭癌と云ふ風に、種々の所に現はれて来る厭なものであります、此の癌を病んで居る患者の血液を調べて見るとその中には普通以上の「コレステリン」を含んで居るものである、此の事實から考へますと「コレステリン」と云ふものは、老年に達すれば現はれ癌の患者にも現はれる、此に於て老年と癌の發生と「コレステリン」とは、深い關係のあると云ふ事が判るのであります、そこで病理學者は、此の關係を説明せんが爲めに動物に「ラノリン」と云ふものを喰はせて見る——多量に喰はせる——さうすると、腺腫、又は乳嘴腫と云ふものが出来

て来るのであります、この「ラノリン」と云ふものは、膏藥の材料になるものであつて、羊の毛を取つて綺麗な織物にする時に、毛を洗ふと其の洗汁の中に澤山含んで居るものであります、この「ラノリン」の中に「コレステリン」が澤山含んで居る之を喰はせますと、前に言つた腺腫、又は乳嘴腫と云ふものが出来て来る、それが久しくすると、癌腫になるのであります、之から考へましても「コレステリン」が血液の中に殖えたと、癌腫或は癌腫に似た病に罹る惧があると云ふ事が言へるのであります、吾々は四十歳を過ぐれば、男でも女でも皆癌腫に罹る立派な候補者であるのであります、仍でこの老衰を防ぐと云ふことは、同時に癌腫に罹ることを防ぐ方法で、一舉兩得であります。

癌の初期に

鶏卵と老衰

——化學者にも判らぬ——

妙作用で食用差支なし

但老人には危険

それからもう一つ補充して置きたい事は、鶏卵を兎に喰はせて老衰状態を起す事を申しましたが此の事に就てあります、鶏の卵は普通に滋養品として用ゐられるものでして、運動に疲れた場合、或は病氣に罹つて弱つた場合、養生の食物と云へば先づ卵が擧げられるのでありますが、この卵を喰はせると老衰状態に陥ると先刻私は申しました併しながら吾々人間は、草食動物ではない、雑食動物——動物とは少し酷いから雑食者と申して置きますが、——この雑食者は不思議な働きをもつて居て、巧にこの「コレステリン」を棄てるのであります、即ち一つは皮膚の表面から脂肪として棄てゝしまふ、一つは肝臓から膽汁として棄てゝしまふ、でありまから雑食動物たる人間にあつては卵に依つて老衰状態を惹起すことは困難であります

す、是は仕合せな事であるのみならず、肺結核の患者及び他の部分の結核患者にありましては、鶏の卵其の他鳥類の卵は、化学者の分析表に現はれて居る以上の働きを持つて居る、何故なれば結核の微菌の周圍には一種特別の細胞が群簇して現はれるもので恰も一つの結核の微菌の周圍に堤防を築いた如く現はれ、さうして結核の微菌から出す所の毒物が、體內に入ることを防ぎ、第二には自己の働きに依つて、此の微菌を喰ふのでありますこの細胞は「コレステリン」の働きに依つて、非常に其の數を増して來るのであります、此故に肺結核の患者、其の他の結核患者が「コレステリン」を多量に含んで居る所の鶏卵を食用すると云ふことは、滋養價——化学者が示す所の滋養價以上の働きがあるのであります、それで古來衰へた人、或は虚弱な人の滋養物として鶏卵が選擇されたのは意味の深い事である、但し前に申した如く、老年

の人にあつては本來血液の中に「コレステリン」が多いのでありますから「コレステリン」に富んだ所の卵を滋養物とすることは危険であるから考へ物であります、それからもう一つは卵の黄味の中には「コレステリン」が澤山あると共に「レシチン」と云ふものが澤山に含まれて居る、此の「レシチン」と云ふものは、血清學上の研究に依れば「コレステリン」の働きと相對抗して之を妨げるものであります、でありますから雜食者である所の吾々人

類は、この鳥類の卵を喰ふことは危険は少い、即ち血液の「コレステリン」の量を増すことが少い上に「レシチン」なるものが「コレステリン」の作用を妨げる働きがあるのでありますから、老人にあらざる限り危険は無いのであります、若い人なれば安心して召上つても差支へないと思ふのであります、以上の二つは補充の爲めに申上げたのであります。

這へば立て立てば歩めの親心

我身に伴れる老を忘れて



地から湧いた幸福(二)

金子彦二郎

九

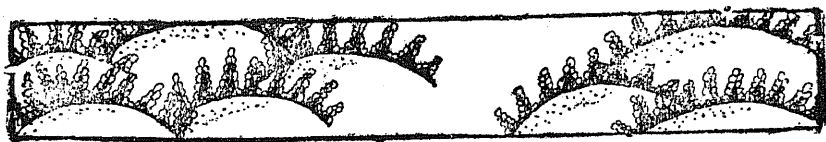
一生の大願を果し得た孫九郎が、心も空の大満足さを胸一ばいに膨らませて下向道を四五歩運んだ時、「もしく」と後から誰か呼びかける聲がしました。併しこの邊で知合のあらう筈もない孫九郎は、自分の事とは露思らず、聞かない振りで尙二三歩行きかけると、
「ばたく」と駈けよつて耳元で「もしく」と、いふ人聲がする。思はず振り返つて、

「俺のことかい。」

と、ぶつさらばうな挨拶をすると、

「はいく、左様でございます。餘りだしぬけに甚だ失禮でございますが、少々お尋ね申上げたいことがございまして……」

と丁寧な物言ひ。「この田舎者の俺に、見れば腰元の二人も供に連れた大家の奥方とも思はれる人が、何の用かしら。」と訝しくは思つたが、



「へえ、この俺に……これ御寮人、田舎物をからかふではねえだよ。」

「いえ、どう致しまして、おからかひ申すなどは滅相な。決してそんなたはけた事ではございません。あの……甚だ突然に……無縁なお尋ねでございますが、もしやあなた様は息子さんをお持ちでいらつしやいますまいか。」

「息子けえ、息子なら孫一てえのが一人あるが、それを聞いて何にするだね。」

「まあ、うれしい。有難い。……それで、あのまだお獨り身でいらつしやいませうね。」

「あ、今年はもう二十だからよい嫁女を貰つてやらうと思つてゐるだが、丁度釣合つた者がねえでな。」

「え、左様でございませうとも、あなた様のお家のやうな御大家には滅多に釣合ふやうな御身代の方のあらう道理がありません。……あの申しおりましたが、私はあの大阪の鴻池の家内でございまして、丁度年頃の娘を一人持つて居りますが、あちこちからの縁談も、丁度釣合ふやうな處がなく、今日も今日とて御本山へよい縁家の見つかりますやうにとわざ／＼祈願にまゐりましたのですが、圖らずもあなた様のやうなお方にお目にかゝれましたも佛のお引合せと飛び上る程喜んでゐるのでございます。甚だ無縁な申分ではございますが、不束ながら手前の娘を其の孫一さまとやらの嫁にお迎へ取つては



「下さりますまいか。」

この突然な、しかも夢に見ることさへあらうとは思はれぬ申出に、孫九郎はすっかり度肝をぬかれ目を白黒させて開いた口も塞がらぬ有様。

「へえ——、鴻池の娘御様を俺の倅の嫁女に……いや途方もねえ……これ——戯談もいい加減にしなせいよ。」

と言へば、

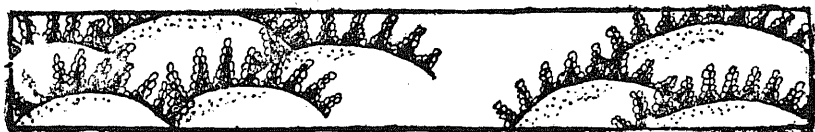
「そりや、あなた様のやうな御大家から御覧になつては、私の家などは吊鐘と提灯で、逆も釣合ふ處ではございませんが、そこをどうぞ御承知下さいまして、是非どうぞ……」

と眞實、面に表はしての懇願に、孫九郎はます／＼呆れ果て、

「はは、こりや、氣狂に違ひねえ、あんな立派な姿をしてゐながら心の駒が狂つてゐるんだ。あゝかはいさうなものだ。え、まゝよ、氣狂と眞面目な談判を始めたからつて暖簾と腕押し、よし／＼、こりや一つ何でも向ふの言ふまゝを聞入れて安心させてやるのが人助けといふもの。」

と、かう腹をきめましたから、四角ばつた語調でかういつた。

「いや御寮人、それほどまでに見込んで仰しやつて下さるなら、よろしうござる。御娘御



の儀は、たしかに俺の息子の嫁女に申し受けることに致しませうよ。」

「まあ、御無理なお願を早速お聞届け下さいまして、こんなうれしいことはございませぬ。さぞ、夫も娘も喜ぶこととございませう。これと申すも靈驗あらたかなみ佛のお引合せ、有難や。さていよくさう話が決着致しましたからには、御國と御名前を承らせて頂きたうございます。」

「わしの國 随分遠方だよ。越後の蒲原郡でね、名前は間瀬の孫九郎といふ者よ。」

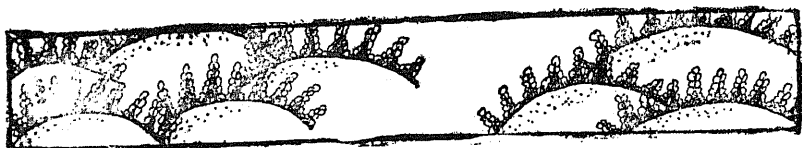
「ありがたう存じます。就きましては、輿入れの時日も序にお決めをお願い申したうございますが。」

孫九郎は何といふ氣早な相談だらうと思ひましたが、「どうせ相手は氣狂だ、氣休めにさへなればよいのだらう。」とかう思つてゐるので、戯談半分に、

「さあ、俺の方でも少しは支度もせねばなんねえから、來年の三月の十五日と決めておかう。」

と言ひ出すと、

「來年の三月十五日、えゝ至極結構でございます。それでは間違ひなく當日には送り届けますから、末永く目にかけてやつて下さいまし、お願申します。あゝ、これで私も安心



致しました。誠にありがたうございました。では御機嫌よろしう。」
と丁寧に挨拶をして引きとりました。

孫九郎はまるで狐にでもばかされた人のやうに、ぼかんと立ちつくしてその婦人の後姿を見送つてゐましたが、いよく其の姿が見えなくなると「氣狂ひつて、どうした神様のいたづらから出来るもんか知らねえが、世にもかはいさうなもんだなあ。」と溜息を洩してゐました。

一〇

西行法師は「……命なりけり小夜の中山」と歌つて居りますが、ほんとに命なりけりで大事な歸國旅費の大半をふとした不注意から、心ならずもお賽錢として喜捨してしまはされた孫九郎は、幾百里の長い道中を、物乞ひしながら、それでも無事に越後路へと足踏み入れて、村を離れてから半年振りに懐しい生れ故郷へ幽霊のやうな竄れた姿を表はしました。

玄關へ出迎へた息子の孫一さへ、永い旅篋れから餘りに變り果てた父の姿に、一時はそれと信じられない程でありました。それで疲れ切つてゐる父を助け入れて、好みの食物を取らせ、蒲團を敷いて寝かせてやりました。そうして足や腰をさすつて勞つてゐると、や



つと少し元氣回復した孫九郎は、

「有りがてえく。かうして無事で國へ歸つて、お前から大事にして貰へるのも、みんな佛様のお力だ。南無阿彌陀佛々々々々……」

「あゝこれ、孫一や、お前にやるいい土産があるぞ……」

などと言ひ出しました。さつき背中の風呂敷を解いてやつたが、土産らしいものなど一つも無かつたことを知つてゐる孫一は、おかしさをこらへながら、

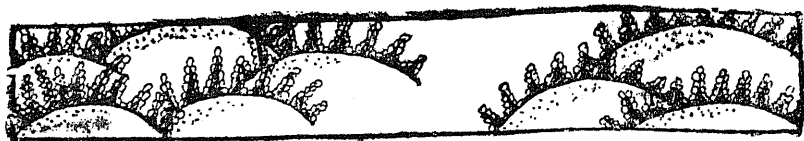
「えい、私へのお土産ですつて、どれどこに」

「まあく、さう急ぐでない。お土産といふのは五色豆や八ッ橋の類でなく、活きた京人形だよ。大阪鴻池の娘御をお前の嫁に貰つて來てやつたんだよ。どうだ豪勢なもんだらう。」

戲談半分らしくはあつたが、父がかういつたのを聞いた孫一は、噴飯して笑ひながら、

「そりや大變なお土産だ。どこにゐますか。」

と、これもからかひ半分にかう問ひ返しましたが、其の次の瞬間に、すぐ額に皺を寄せて深い吐息をつき、「あゝく、あんまり見馳れぬ他國や長旅で氣苦勞したもんで、こりや少々氣がふれてゐるやうだ。だから私があんなに止せくと言つたのだが……何しても困つ



たことだ。」と心の中で唸きました。併しそんなことには氣づかない孫九郎は

「まあ、楽しみにして待つてゐるだよ。來年の三月十五日になるとね、大名のやうな立派な供揃へで乗り込んで來るからな、はは……。」

とかう言つて愉快さうに笑つてから、いつしか眠りに落ちていきました。

孫一は脚を揉む手を休めると、もう一度其の旅疲れして日に焼けた父の顔をのぞき込んで溜息をもらしました。

一一

孫九郎は日が經つに従つて元氣になりました。さうしてあちらこちらへ招かれて行つては、この村人達の誰も見たことのない上方の話や御本山の話や、さては道筋の諸國の風俗や、山路の怖しさなどを、誇張たつぷりな表情で物語つて得意がつてゐました。勿論「來年の三月十五日の約束」などは、再び言ひ出しもしなければ、待設けても居ませんでした。

併し曆の仕事には休日がなく、絶えず今日を昨日へ、明日を今日へと持ち運ぶことを怠りませんでした。孫九郎親子の頭からすつかり忘れられてゐた來年の三月十五日は、いつの間にかこつそり漂着してゐました。

ある日の朝です。七兵衛といふ魚賣りが恐しくあわてた調子で孫九郎の家へ飛び込んで

來ました。

「これ／＼、孫九郎どんや、お前はまあとんでもねえ人ぢや。去年上方參りをして來たといふが、あちらで何か悪いことでもして來ただな。」

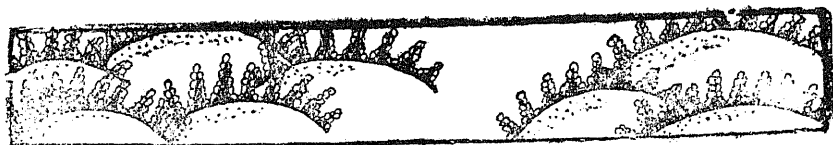
「おい／＼、口の利きやうもあらうもの、この善人の俺を惡黨呼ばはりには、何か其の證據でもあつてのことか。」

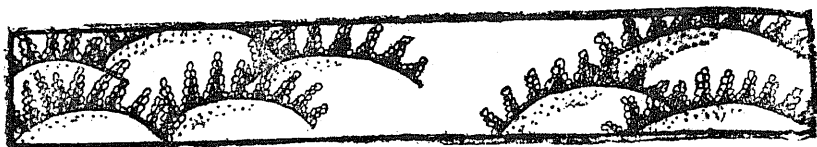
「あるとも／＼、今な、俺が魚を賣りに在方へ行かうと思つて峠まで行つたのぢや。するとな、立派なお武家が何十人といふ捕方を引連れて、『これ／＼、間瀬の孫九郎の家へはまだよほどあるかな。』

とかう言ふんだ。俺はもう魂の居場所を見失ふほどびつくりして、返事もそこ／＼に、魚の籠も打ちやつて飛んで來たんぢや。もう濟んだことは仕方がねえ、ぐ／＼してゐるうちにもだん／＼捕方の手が近づく。悪いことは言はねえ、今のうちとつとどこかへ隠れろ／＼。」

と忠告するのです。

さうかうしてゐるうちに、權十といふ魚賣りがまた一人、息せききつて駆け込んで來て、「た、た、大變だ／＼。これ孫九郎どんや早く逃げろ／＼。手前をからめ捕るとて、唐丸





籠を持つた捕方が、あれあの峠の下で休んでゐたぞ。そしていきなり俺の前に立塞つて『これ間瀬の孫九郎の家に案内しろ。』とかう怒鳴るだ。俺は一時腰を抜かしてべたつとへたばつてしまつたが、兄弟分の手前を見すゝ弱め捕らせちやおけねえと思つて注進に來ただよ。これゝさう呑氣な顔をしてゐずに、一刻も早く落ちのびるだよ。』と追つ立てるやうに急かせてゐるが、孫九郎の方は案外平氣で、

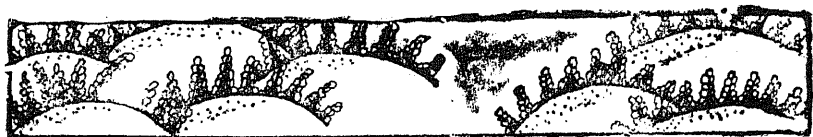
「いや兩所とも御親切まことに忝けない。だが、時に今日は幾日かな。」

「人の親切も思はずに何といふ平氣な面あしてゐるだ。今日は幾日かもねえもんだ。三月十五日にきまつてゐらあ。」

「えッ、あに、三月十五日。うーん、さてはいよくやつて來たかな。」

「それ見ろ、手前の身に覺えがあると見えて顔色が變つた。跡の始末は俺等が引うけるから、ささ、一刻も早く逃げるだよ」

「まあゝ待つてくれ。『さてはいよくやつて來たかな。』といつたのは外の話。實は上方で大阪鴻池の御寮人とこれゝかやうしかゝの約束、だが餘りに途方もない話なので、いゝ加減にあしらつて、實はもうすつかり忘れてゐたが、さてはいよく乗込んで來たと見える。だが、もしかしたら狐の嫁取が俺をたぶらかすのかも知れない。狸の大



名行列かも知れない。とにかく、この狭い俺の家ぢや何十人の大一座の座りどころもない。さてどこへ連れ込んだもんなあ。」

「へえー、そんな話か。それならさうと早く知らせておけばよいに。よし／＼こんなことの相談は庄屋さんに限る。ぢや俺がこれから一走りして庄屋さんの智慧をかつて来てやらう。」

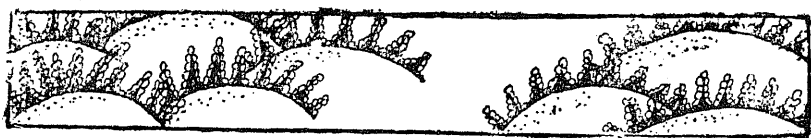
親切な八兵衛は一散にかけて飛び出していつたが、やがて立戻つて来て、

「これ／＼、やつぱり庄屋さんはえらいや、大阪の鴻池なんかから孫九郎風情の處へ興入なんかのあらう筈もない。それは古狐のたぶらかしに違ひないから、あの村端の化物屋敷へ案内して、みんな化物の餌食にしてやるがよい。」

といふ御託宣だ。

「そりや誠によい思ひ付きだ。ではその行列が来ないうちに、ざつと化物屋敷の掃除をしておかうぢやないか。」

といふことに話が一決。近所隣の人々が箒や塵拂を持ち出して、何百年と住んだことのない化物屋敷を、大急ぎで掃除をしてくれました。



行列はいよく村端れに來かりました。

簞笥が二十棹、長持が十棹、供揃が八十人、いや實に素晴らしい美しい又仰山な行列です。化物屋敷の掃除も大體済んだので、孫九郎は一寸着物を着換へて、村端れまで出迎へ、

「これはく鴻池様からのお越しでございますか、遠路まことに御苦勞に存じます。手前が間瀬の孫九郎でございます。さあどうぞ、むさくるしうはございますが、手前の邸へ……。」

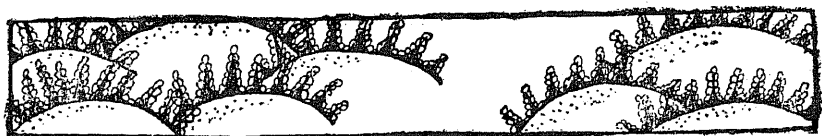
と言つて、例の化物屋敷へみんなを案内していきました。供揃への者供は、

「なるほど、これが千萬長者の間瀬の孫九郎様のお屋敷か。奥方の眼力に間違はない。さすがに宏大なものだ。立派な大邸宅だ。」

といつて感心してゐます。

其の晩は庄屋さんからの仕出しで、飲めや歌へやの大酒宴のうちに、孫九郎の倅孫一と大阪鴻池の娘御との婚禮も芽出度く運びがきました。さて翌る日になると、大阪から送つて來た供揃の人々は、それくお祝儀を貰つて大満足して歸つて行きました。

後には孫九郎と孫一夫婦の三人だけが、大きな化物屋敷の中に、丁度絶海の無人島へでも打上げられた漂流者のやうに淋しく取殘されました。大きな邸に育つた上に、化物屋敷



といふことなど夢にも知らない嫁女には、何の事もありませんが、その由來を知りぬいてゐる孫九郎親子には、こゝに住むのが怖くて／＼堪りません。それで夜になると、親子とも「今夜は一寸親戚へ行つて来るから、留守居をよろしく頼む。」とか、「今夜は據ない用で友達を訪問して来るから後をたのむ。」とか何のかのと口實を設けては出て行きます。鴻池の娘だなど、言つても、まだ／＼狐か狸か正體が分りやしない。眞人間なら氣の毒だが、留守中に化物に喰はれるなら喰はれてしまつた方が始末がいい。」といふ肚なのです。

一三

さて夜がほの／＼と明けかゝる頃に孫九郎親子は、おづ／＼化物屋敷へ歸つて見ました。すると、昨夜のうちに喰ひ殺された筈と許り思つて居た嫁女は、しとやかに閨際に手をつかへて

「御父様、旦那様お歸り遊ばせ。」

と挨拶をして迎へ入れるのです。親子は

「おい／＼今のは、もしかしたら嫁女を喰ひ殺した化物の變化へんげではあるまいか。」

と、怖へて仕様がありませんが、さうかといつて本當の人間らしくもありますので、そこから姿を隠してしまふわけにもゆかず、毎晩々々いゝ加減な口實を設けては出て泊つて歸



りますが、嫁女の毎朝の出迎へから、物言ひ動作に至るまで些しも變つた所がありません。餘りの不思議さにたうとう或日のこと、孫九郎が

「これ、嫁女や、この頃何かと忙しいので、ろく／＼家に寢泊りしたこともなく、そなたに留守居ばかりさせて誠に氣の毒ぢやつたが、何かその間に變つたことでもありはしませんでしたか。」

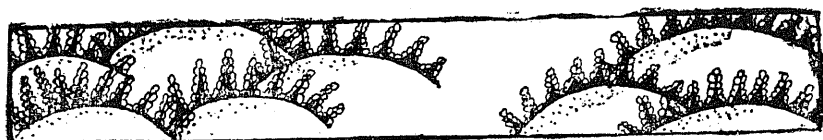
と、おつかなびつくりながら探りを入れて見ました。

すると嫁女は、恭しく手をつかへて、

「はい、これぞと言って別段變つたこともございせんが、さやうでございます、毎晩十二時頃……」

と、こゝまで話が來たとき、親子は目を見合せてぶる／＼と戦きました。併しそんなことには氣づかない嫁女は。

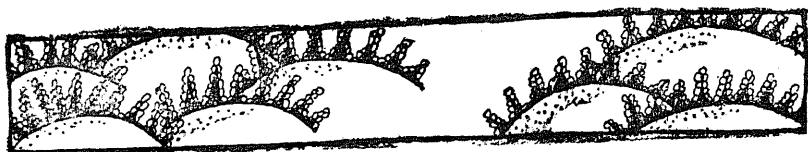
「……十二時頃になりますと、お二人の御來客がございます。お出迎へ申上げると、『私達は孫九郎殿の身内の者でござるが、今晚も御兩所が御他出ぢやによつて、留守居として頼まれて參じた者でござる、食事何も濟ましてあるから、一切お構ひないやうに。』との仰せでござります。」



親子は顔の色を失ふばかりにおそれ戦いて小刻みに頭を打ふるはしてゐます。併しそんな事には無頓着に嫁女は尙ほ言葉をついで、

『どちらのお部屋へ』と申上げますと、『あの一番奥の間へ通して戴くことにしようかね。』と年上の方が仰しやいました。すると『それが宜しうござりませう。』とお年若の方も御同意なさいましたので、其の通りに致して置きました。お二方は『お湯も茶もいらぬ。』との仰せでござりますれど、それでは餘りに失禮と存じまして、昨夜は夜食をととのへて持参いたし、お次の間まで参りますと、何やらお話の後で痛く御愁歎の御様子でございますので、そんなお席へ立入りますものも不躰かと存じまして、そこに暫く差控へて承るともなく聞いて居りますと、年上の方と思はれますのが、『……全くこれだけの財寶を、日の光にも遭はせずにかうして土中に朽ち果てさせるのが、如何にも口惜しくて……』と仰しやつて聲をお曇らせになりました、お若い方らしい聲が「私共の宙に迷うてゐる種はその事でございます。これさへ明るみへ出ますれば……」などと合槌を打つていらつしやいました。

かうした報告を聞いた孫九郎親子は、恐怖の半面に一種の好奇心が踊り上つて來るのを感じました。それは此の化物屋敷にからまる古い傳説を思ひ出したからであります。



——今から數百年前、この屋敷には巨萬の富を積んだ大分限者が住んでゐました。ところが或年の或閨の夜に、海賊船がこの濱邊に錨を卸し、數十人の兇賊どもが手に獲物を持つて、此の邸に躍り込み、手當り次第に人々を塵殺にし、家財や什器を掠奪して引上げたが何でも第一の目的物たるお金だけは少しも見出すことが出来なかつたとか。——

一四

そこで親子は其の奥の間といふ所へやつて来て、先づ疊を上げて見ましたが、何も變つた所はありません。次に床板を取去つて見ました。すると床下の地面に心持もち上つてゐる處がありました。そこで勇を鼓して靴でもつて其の箇所を掘り返して見ました。五寸……八寸、何もありません。いよく鍬先が一尺程の所まで掘り下げていつたかと思ふ頃、カチリと音がしました。で、そこを掘りのけて見ると、それは伏俯せにした小皿の一枚でした。小皿は幾枚も並べて伏せてありました。その小皿を取除けると、そこには驚くべき輝く幸福が潜んでゐたのでした。小皿は實は大きな甕の蓋として用ひてあつたので、そこには目を射る山吹色の大判小判が一ぱい満たされてありました。其の側を掘り返すと、同じやうな甕がまだ三つ、都合四個の金甕があつたのです。親子は雀躍りして發掘に従事しました。其の總額は莫大なものでした。



早速この旨を庄屋を通じて代官に届出ましたが、ずつと前から廢家になつてゐて相續人も無いことであるから、發見者たる孫九郎親子に下げ渡されることになりました。

一五

孫九郎親子は忽ちにして巨萬の大分限者になり上りました。それこそ本當に大阪の鴻池に比べても決してひけをとらない千萬長者になつたのであります。そこで其の屋敷でかつて海賊どもの兇刃に罹つて横死した主從達の菩提を吊ひ冥福を祈る爲に、近郷近在の僧侶を悉く招請して、思ひ切つた盛大な供養會を営みました。

毎夜十二時と期してはやつて來て、奥の間で腕拱いて歎き愁へてゐた主從の姿は、それからはふつつりと跡を絶つてしまひました。さうして孫九郎一家の賑やかな笑ひ聲が、春風を思はせるやうに其の部屋々々をさゞめき流れて居りました。(二四、九、二二)

貧乏は達者の基　無病は一生の極樂

東京女子高師範學校創立五十年記念

一、廣く世局の進運に鑑み女子教育の忽にすべからざるを察し、明治七年三月東京女子師範學校創立に着手せられ、同八年十一月廿九日開校の運になつた。これが東京女子高等師範學校の起源で、今大正十四年十一月廿九日は創立五十一年、開校五十年の記念日に相當する。五十年間幾多の變遷があるが、要するに女子教育は非常な進展を見てゐるのは一は東京女子高等師範學校の發展によるものである。

二、附屬幼稚園は明治九年六月設立せられ、本邦に於ける幼稚園の嚆矢をなすもので、今年にて四十九年の歲月を経てゐる。

三、東京女子高等師範學校は開校五十年を記念し祝賀するため、來る十一月廿九日盛大なる記念式を舉行し、翌日は記念講演會、音樂會等を催すため、目下それぐ準備中である。（醫峰生）



ビスケット

さんう生

時計がチン／＼

母ちゃん、ちやうだい

おいしい、あーまい

あめやの太鼓が

おやつを手にした

駆け出す、手もとへ

落すをおそしと

なめてるポチから

カリカリたべてる

三つ鳴る、

お約束、

ビスケット。

ドドンコ・ドン

日出夫^{ひでを}ちゃん、

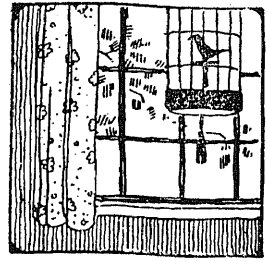
ポチがワン。

ポチなめる。

取りかへし

日出夫^{ひでを}ちゃん。





幼兒教育の根本原理

靜 枝 譯

東テキサス州師範大學の練習學校長ヒツケット、同大學幼稚園長デュラルディ、ホーレン著幼兒教育の第一章を譯したのである。吾々幼稚園關係者小學校初學年教師の參考となることが甚だ多いと思はれるから特に本誌に掲載する。

大人の生活に於ける多くの失敗、及還境に對する不適應は、幼年時代に於ける訓練の誤り、又は自己表現、自己啓發の好機の缺乏に多く歸因するは疑ふ可からざる事である。アドラー氏は其の著「神經體質」に幼兒は世界中最も抑壓されたる有機體なりといつて居る。子供は大人の氣まぐれや、怒や、其の欲する儘に服従し常に大人に抑壓されてゐる。此の爲に子供の心に取つて最も希望せらるゝ状態は、大人の狀態である。大人は全力を有する獨立者、誰にも鞭たれたり、學校へやらされたうしない。従つて子供は遊戲に於て周圍の大人の生活に侵入し大人の眞似をする。

數十年前に行はれたる幼兒に關する考は幼兒は見せしむべし聞かしむべからずといふ古諺につきてゐる。社會は大人の爲に大人によつて造られたる場所で、子供時代はやがて結ばるべき果を思つて堪へ忍

ぶべき時期として考へられて居た。併し我々は今や教育の基礎は、子供の要求彼等の生活經驗に置かねばならぬ事を知り、又兒童の安寧の如何は國民の將來に重大なる關係を有するものなる事を熟知してゐる。

クリノ氏は次の如く述べてゐる。

我々が注意すべき事は、先生によつて子供が統御されるのではなく、子供が、自分で自分を統御する事である。又子供が如何に多く學ぶかといふ事よりも、寧ろ兒童をして學習の氣を起させる動機が大切なのである。又兒童はそれ自身の個性に基づかねばならぬ。そしてその中最も大切なものは自發と獨立である。又四五歳時代の團體生活は社會性を發達させ自分勝手の利己心を根絶させる爲に缺く可からざるものである。——總べて之等の事を我々が、認知する時は我々は至る所に於て幼稚園を用ひ且もつと厚くこれを使用しなかつた、その愚鈍さを怪しむであらうと

フレーベル氏は「人は後年に至つては百磅の力、否數百磅の力を以てしても爲し能はざる事を幼年時代には羽毛の如き輕き力を以て爲す事が出来る」と云つてゐる。

アメリカに於ける最初の幼稚園はフレーベル式であつて幼兒教育の基をなす原理基礎としてフレーベルの恩物・作業を、その使用に關する理論と共に認めてゐた。是等の學說原理は長年月の間に行はれた。併し後に至つて幼稚園の思慮深き教師は、此の材料を取扱ふには複雑なる筋肉の共同作用を要するので

ある。かゝる材料を子供に使用せしむる事の可否を論じ始めたのである。そしてつとよく子供を研究した結果、フレーベル氏のシンボリズムの學說——神性との一致——恩物の使用も之れに基礎を置く所の此の學說は全く心理學的に有力なる根底の無いものなる事が解つた。それで最近幼稚園では此の學說を受け入れてない。併しフレーベルの恩物を排斥してゐるのではない。悦んで之れを娛樂や自由遊びに用ひてゐる。斯く恩物が使用せらるゝ時は、其の幼兒教育に於て有する唯一目的を達成すると信ずるからである。新らしき幼稚園に於ける意見は、所謂學課としてお膳立されたる知識を詰め込むといふ事は、子供に取つて望ましい事で無いと云ふフレーベル氏の意見と一致してゐる。第二の一致點は遊戲の教育的價値を認める事である。フレーベル氏は幼兒の遊戲の中に、自然生活の表現を見た。フレーベルの幼稚園は想像的模倣的遊戲を基礎としたる最初の學校であつた。彼の遊戲に關する觀念は、定められた體育的訓練をやつてゆく事を兒童に要求した古のギリシャのそれとは、甚だ異つてゐた。フレーベルと新幼稚園とは第三に自己活動による自己表現を信ずる點に於て又一一致してゐる。併し我々は又或る點に於ては彼の學說實際と意見を異にしてゐる。これ彼の時代より世界は長足の進歩をなして、教育が複雑に多方面になつた爲である。併し我々は彼の考が當時の教育學說及び實際に著しき進歩の跡を残してゐる事を記憶せねばならぬ。彼は吾が幼兒教育の進歩を可能ならしめたる第一の開拓者である。今日我々が彼と學說を異にする所があらうともそれは問題でない。我々はあの兒童の壓迫されてゐた時代に猶兒童と共に

に生活し、兒童を愛し、兒童の心をよく理解したるフレーベル氏に對し當然拂ふ可き尊敬を惜むものは決してない。

今日の幼兒教育に廣く影響を及ぼせる第二の開拓者はマリア・モンテソリー女史である。女史は嘗て伊太利に於て白痴教育に従事してゐた。女史が始め自分の學校に於て實行した所の試みの結果は、恐らく女史の通常兒に關する結論に影響してゐたであらう。女史の教育學説は、同じく白痴教育に従事してゐたイターやセーガンの著書に基礎を置いてゐる。女史はモンテソリー法と題する著書に於て、自分の學説にはセーガン・イターの影響が、あるといふ事を云つてゐる。従つて女史は健康なる通常の精神力の子供の才能興味を幾分誤つて判斷する所があつたと見ても差支へない。女史はフレーベル氏と同じく自己活動を信じた。此の點に於て最近幼兒教育者は女史と意見を同じくしてゐる。女史は自由は人を獨立させ、且つ役に立つ様にさせると信じた。併し女史は此の獨立を餘りに重んじ過ぎた結果子供にすべての事をやらせて、斯くする事が、子供に經濟的なりや否やをも顧みなかつた。女史は社會的補助團體生活の相互補助の觀念を認める事には失敗してゐる。併し女史は子供の世話を焼き過ぎると子供の個性を滅してしまふと言つてゐるのは至言である。女史は

我々は常に子供の面倒を見過ぎる。これは子供に對して奴隸的な行爲たるのみならず危險な事である何となれば子供に必要な自發活動を妨げるからである。……爲さざる所の子供は如何にして爲すべき

かの方法を知らないといふ事を吾々は考へても見ない。

と云つてゐる。幼児教育に關する最近の考は、子供が自分で出来る事は子供にさせて、他からしてやる事を少くせねばならぬといふ女史の言と一致してゐる。

モンテソリーの幼稚園に於ては先生は觀察者である。これはフレーベル幼稚園に於て先生が中心になつて指導をするのと明なる對照をしてゐる。モンテソリーはフレーベル及最近教育者が、遊戲の價值を認めたに反して之を認めなかつた。教具は感覺練習の爲に作られてゐる。女史の全教育法は次の句が、例證する如く感覺心理學を基礎としてゐる。

即感覺教育に重要な事項は所を選ばず感覺を離して孤立させる事である。

と。新幼稚園は感覺を孤立させ練習によつてこれを訓練する事は試みない。寧ろ子供に適當なる感覺經驗を與へて、これを通して適當なる感覺反應が典型的な生活狀態と結び附く様にしてゐる。教具は教師の代りをしそして女史自身言へる如く自己矯正器である。こゝに又女史は恐らく通常兒の才能を理解しない。子供は自分が必要を感じない事を繰り返し繰り返す事に決して満足しないだらう。従つて若しやつたとしてもそれは先生の強制によつて機械的になされたのである。教具で遊ぶ事は固く禁じられてゐるモンテソリーは「若し私が子供は遊ぶ事を必要としてゐると認めるならば私はこれに適當なる教具を與へたであらう。併し私はさうは認めなかつた」と公然と云つてゐる様に引證されてゐる。

併し今日の心理學は幼兒に遊戲の必要なる事を論證してゐる。グルース氏は子供は若いから遊ぶのでなく遊ぶ爲に若いのであると云つてゐる。最近の教育者はモンテソリーが教育に新しき貢獻をしないといふ意見に一致してゐる。キルバリーク博士は女史の最も大なる貢獻は教育の科學的概念を力説したる點と田田の實驗的採用を力説した點であると云つてゐる。

就學すべき兒童の天性 就學すべき兒童の活動

1. 身體的

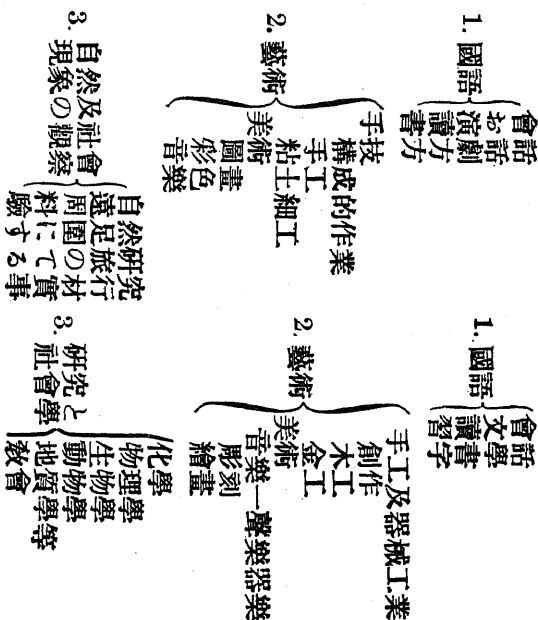
- a. 大きく簡單なる基礎的筋肉の共同作用の統御を得る事
- b. 大なる可塑性の時期
- c. 速なる腦の生長期
- d. 弱き循環器
- e. 他の機能に比して小なる心臟
- f. 容易に疲勞する事
- g. 永久齒發生の時期

1. 身體的

- a. 走る事
- b. 飛ぶ事
- c. 木登り
- d. 物を投げる事
- e. スキップする事
- f. 蹴る事
- g. 捕へる事
- h. 材料の取扱

課程

人生の技能



て、そのあらゆる教育は人生の準備として與へられるのを目的とする。

幼稚園には四歳から八歳までの子供が来る。兒童は種々雑多の経験を積んで生きて行く。それで之等の経験から、將來の進歩に價值ある、子供に適した経験を撰擇するのは幼兒教育者の仕事である。子供をして自分の力によらしめる所の之等の経験は、子供に自分で判斷する事、自分で決斷する事を要求する有らゆる行動が、教師によつて指圖され、教師によつて正否の決定を見るならば、如何なる組織の教育も、自立的な自信ある個人を作る事は出來ぬ。是等の経験が撰擇される標準は子供——即子供の天性と、その天性が高き完成されたる域に達し得る如き條件である。幼稚園の初期に子供はそれ迄無器用に使用してゐた大きな簡単な基礎的筋肉の共同作用の統御を得なければならぬ。此の子供の天性に關する知識は保姆をしてフレーベルの恩物を擴大し、他の材料の性質を代へて幼稚園のプログラムを作成せしめたのである。

若し有らゆる機關が同様に發達するならば各機關は大人の重さの三分の一に達するであらうといふ事はタイラー氏によれば眞理ではない。消化機關は他の機關より進んでゐる。併し腸の内面は弱く感じ易い。此の事實が、子供をして、よく消化された食物を取り、一日に三回以上食を取る事を必要ならしめるのである。十時に一きれのパンとバター一杯の牛乳を與へられても其爲に子供は晝食が拙くなる事は無い。又此の時期には子供の心臓は他の機關に比して小さい。此の小さい心臓が、比較的に大きい身體に

その筋肉は運動を切望しゐる身體に、血液を送る事を要求されてゐる。此の爲に子供は、どんなに肉體運動が楽しくても疲れ易いから朝の間に休息の時間を取る事が必要になるのである。子供は小さい臥床に横になつて此處ですつかり休む。時としては寢込んで仕舞ふ。少し経つて子供は此の休息から醒め、新に活動を始める元氣を回復する。

小學校に入る頃の子供は話をする事が、好きで、物を作つたり、裝飾したり、又よく不審を尋ね、又よく遊ぶものである。子供は家の事に自分の愛するものや、自然や、又他に聞いた話などに就いて話さうとする。又物を作りたがる。そして棒に釘を打つたり家を建てたりして玩具を作つてゐる。子供が、體を飾る事を好むのは花や葉や羽毛などを身につけて自分を飾るのもわかる。又子供に好奇心が強い。子供は如何してそれが出来たのか、如何してそれが斯う成るのだから、知り度い爲に多くの物を切れぐに裂いたりする。そして最後に子供は遊びに忙しい生物である。終日走つたり飛んだり、跳ねたり、周圍の大人の眞似を爲たりしてゐる。

我々が、最初に考慮すべき事は、一方には子供にとつて望ましき經驗と習慣で、他方には、是等の經驗習慣から、將來の訓練の爲に價值ある者を吟味する所の標準である。第二に考慮すべき事は、此の經驗と習慣とそして此の話好き、製作好き、裝飾好き、遊び好きで、好奇心の強い子供とを、如何にしてよく調和させるかの手段である。此の方法が課程である。課程は子供の自然的傾向が、これによつて彼

に適し社會の要求に合する様な活動へ向ふ刺激を受け、その方向を選定する様になる所の動作力である
 幼兒教育は正しき生活の習慣を養ひ、社會的協同と個人的責任とを發達させ、自發と豊富なる實力を
 刺激し、且團體生活の日々の問題を解決する才能を啓發する事を求める。それは經驗を擴め、了解し、
 之を組立てる好機を與へる。技倆と理解の方面では、言葉遣ひの誤を正す様に子供を習慣づけリズムの
 感じを刺激し、發達させ、歌ふ聲の統御を與へ、最善の文學音樂美術に對する欲望を生ぜしめ、斯くの
 如くして、心の中に價值ある理想を築かしめる。課程をやる所の方法は、子供が、自己を表現する所の
 手段・行動、即ち初子供に感情思想想像を考に入れねばならぬ。是等の種々の表現を實現するものは言語
 繪畫、音樂、手工、遊戲である。そして是等は教育の決勝點たる人生の技能の達成に導かれねばなら
 ぬ。

(未完)

誤

正

五六頁	三行	ケリノ	ケリノ
五七頁	一行	ある。かゝる材料	ある。を省く。
五八頁	十一行	女史は社會的補助團體生活	社會的補助團體生活
五九頁	十五行	公然と云つてゐる様に	公に
六二頁	五行	る有ゆる	る。有ゆる

注意

稟告

注文規定

- 一、幼稚園及び小學校、家庭、育兒、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歡迎いたします。
- 一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字下げること。また句讀點は一字あけること。
- 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に
- 本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

- 一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申込下さい。
- 一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割増し、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定價

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料貳錢
半々年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

大正十四年十一月十日 印刷

大正十四年十一月十五日發行

幼兒の教育 第二十五卷 第八號

編輯兼發行者 堀 七 藏
東京府豐多摩郡戶塚町大字戶塚五七五

東京市牛込區山吹町一九八

印刷者 大杉 直 次 郎

東京市牛込區山吹町一九八

印刷所 大杉印刷所

不許複製 轉載

發行所

日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓

一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷

廣告

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい

謹 告

一、機關雜誌**幼兒の教育**は發行者を本會主幹堀七藏發行所を日本幼稚園協會に變更し、前發行者敎文書院越元新吉とは一切の關係を斷ちました。従つて幼兒の敎育に關する一切の御通信は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛に御願ひ致します。

二、日本幼稚園協會譯**幼稚園保育要目**の版權は日本幼稚園協會が譲受けましたから御注文の方は當協會宛に御申込下さい。定價金**壹圓五拾錢前金**(郵税不要)にて振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に御拂込み下さらば直に御送附いたします。尙大正十二年十二月以降の幼兒の敎育、多少殘本が日本幼稚園協會にありますから入用の方は至急御申込下さい。

大正十四年 月

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

久保良英主幹
青木誠四郎主任

幼兒之研究

第一輯

菊判洋綴
價壹圓廿錢
送料拾八錢

低學年幼稚園の教育は教育の根柢であります。ですから歐米のこの方面の研究、施設の發達には極めておどろくべきものがあります。本書はそれ等を知ると共に我學界の尊重研究の發表機關です。幼い小供のよき教育のために、本書の必讀を切に推奨致します。

目概容内

幼兒の實驗的研究の歴史	幼兒研究の原理	幼兒生活理解の方法に關する研究	兒童生活理解の方法的立場について	兒童精神の判解について	幼兒に於ける數の發達について
廣島高等師範學校文藝學士 久保夏英	西テキオカス大學、バード、ポールドウィント	松本女子師範學校、ライラ、ピケツト	東北帝國大學文學士 青木潮艶	廣島高等師範學校文藝學士 長田新太郎	

京城帝國大學教授

福富新一郎著
先富新一郎著
生富新一郎著
新富新一郎著

メンタルテストの原理

テストの結果標準
を知らんこする人
の爲めに提供す

入學試驗問題としてメンタルテスト或はテスト形式の適用は、科學的正確といふことに對する人間の根柢深い要求から於て當然のことと考へられて來た。然るに我が國で最も親切丁寧に基礎知識を豊富に授けられた者であるが、久しき以前よりこれが理論及び實際についてなせる眞摯なる研究の成果でなく、教育心理學的權威の科學的解決を得る爲め近來の好著である。

先生主幹
刊新

個性と教育

薪判洋綴
 定價壹圓五拾錢
 送料拾八錢

凡ての根本基調は徹底した個性の研究殊に教育上の個性の研究である、本書は斯道學會が各方面の大家を煩じ公にした

文學士
青木誠四郎

保育學校

保育學校實際研究

全一冊 三十
定價 八拾錢
送料 六錢
最近ニユー
研究せる結
あたられる
教師保姆諸
氏へすすむ
に於てその
實際を實驗
教育に

文學士
青木誠四郎

兒童心理學序說

全一冊 四十圓 送料 拾八錢
價貳圓 拾錢
本書は單に知識の敘述たるに止らず進んで兒童研究の方法を説いて其問題を提供した。

東京女高師前
黒瀨艶子

幼児の想像生活と其教育

價貳圓五拾錢
送料拾八錢
本書は幼兒の精神生活を虚心に凝視し、幼兒の世界の展開を明かにしたものである。

文學士
上野陽一

學校兒童精神檢查法指針

全一冊 七十錢
價貳圓七拾錢
送料 十八錢
結果 精神力的發達の程度を測定する力を示し、知力の程度を診断する方法を説き、其の仕方を明にした。

醫學博士
三田谷
啓

學童保健

全一冊紙數六百
定價五圓
送料貳拾七錢
育家の深奥なる學理と豊富なる實驗である教
學校醫諸君の必讀を乞ふ。

書叢究研童兒

發行所 東京良町市牛込區 中文圖書館店 振電 替電話 東京三三三八 四三二二 二五七番 番番

幼児の最良運動具を提供します

此の運動具は理論家技術家實際家の最善
を盡したる研究の結晶であります

1925年式

鐵製運動具

鐵製アランコ ¥ 65.00

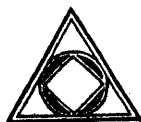
" 七 臺 ¥ 90.00

" 遊 動 木 ¥ 95.00

" 廻轉シーソー ¥ 70.00

" 廻轉馬椅子 ¥ 45.00

" 廻轉スケート ¥ 38.00



町谷ヶ指区川石小京東
館ルベール 株式會社

一〇三六川石小話電
〇四六九一京東替振